

宇都宮市埋蔵文化財調査報告 第63集

中島笹塚遺跡 (A区)

平成20年1月

宇都宮市教育委員会

序

宇都宮市の東谷・中島地区付近は、小河川低地によって刻まれた低台地が南北に広がっています。ここには東谷古墳群をはじめ、杉村遺跡、権現山遺跡、磯岡北遺跡、立野遺跡などの古代集落や東山道といった貴重な遺跡が複合して遺跡群を形成しております。近年宇都宮環状線や北関東横断道路の開通、そして独立行政法人都市再生機構による土地区画整理事業も進行中です。これらの開発に伴って東谷・中島地区の遺跡群は発掘調査が行われ、古代の人々の営みが大規模に姿を現しつつあります。

今回、報告書刊行の運びとなった中島・笹塚遺跡は、この遺跡群の中の遺跡で、財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターの確認調査により古代の集落跡の存在が明らかになっていました。

また、県内最大級の古墳時代の竪穴住居跡の存在が明らかになった立野遺跡の東側に隣接する区域でもあります。その後商業施設建設による影響を受けることになり、関係機関との協議のうえ、記録保存のための発掘調査を実施いたしました。その結果、古墳時代から奈良時代の竪穴住居跡をはじめとした遺構、遺物が出土しました。これらは当時の集落の様子を知るうえで、非常に貴重な資料を得ることができたものと考えております。

本報告書は、発掘調査で得られた成果をまとめたものであり、多くの方々が多方面におかれまして、広く活用していただけますことを期待するものであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・刊行に至るまで多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関並びに終始ご協力いただきました地元関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成20年1月

宇都宮市教育委員会 教育長 伊藤文雄

例 言

1. 本書は、栃木県宇都宮市東谷町インターパーク54街区2画地に所在する中島笹塚遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は宇都宮市教育委員会が主体となって行った。現場実務は宇都宮市教育委員会の指導のもと、(有)山武考古学研究所が実施した。
3. 調査は、(株)福田屋百貨店、中村土建株式会社が行う施設建設工事に伴い、独立行政法人都市再生機構の発注する東谷・中島地区54街区2画地埋蔵文化財発掘調査業務委託として実施した。

4. 遺跡の面積及び調査期間・調査担当は下記の通りである。

調査面積 1,700m²

調査期間 平成19年7月30日～平成19年9月11日

調査担当 土生 朗治、板垣 宏、大橋 忠昭、越智 徹 (山武考古学研究所)

5. 本書の執筆はⅠ-1を富川 努(宇都宮市教育委員会)、Ⅰ-2・3を土生、Ⅱ-1～4の遺物関係を越智が、Ⅱ-1～4の遺構原稿及びⅢを土生が担当した。
6. 調査期間に於いて、下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。

(順不同・敬称略)

田代 隆、後藤 信祐、水野 順敏、(財)とちぎ生涯学習文化財団、宇都宮市シルバー人材センター、カワヒロ産業

凡 例

1. 第1図は国土地理院発行5万分の1『壬生』、第29図は栃木県埋蔵文化財調査報告第274集『東谷・中島地区遺跡群3』の付図1を使用した。

2. 本書及び遺物の注記に使用した略号は次の通りである。

中島笹塚遺跡→UTNK-A 住居跡→SI 土坑→SK 溝状遺構→SD

3. 遺構実測図中の方位は座標北を示し、土層図・断面図に記した数値は標高を表す。

4. 遺構・遺物実測図の縮尺は次の通りである。

遺 構 全体図……1/150 住居跡・土坑……1/60 ピット……1/40 溝跡……1/80

遺 物 土器・石製品……1/3 鉄製品……1/2 玉類……1/1

5. 遺物写真図版の縮尺は1/3を基本とし、玉類は原寸、写真図版の土器小片と鉄製品は1/2とした。

6. 遺構・遺物実測図中のスクリーン等の使用は次の通りである。

〈遺構〉

〈遺物〉

 粘土  黒色処理  赤彩

● 土器 ▲ 石製品 ■ 鉄製品

目 次

序	
例言・凡例	
I. はしがき	
1. 調査に至る経緯	1
2. 遺跡の位置と環境	1
3. 調査の方法と経過	3
II. 遺構と遺物	17
1. 竪穴住居跡	17
2. 土坑・ピット	31
3. 溝	34
4. 不明遺構その他	34
5. 遺構外遺物	38
III. むすび	39

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第15図 S I 03 (1)	21
第2図 遺跡の位置図	4	第16図 S I 03 (2)	22
第3図 T 3	6	第17図 S I 04	24
第4図 調査区全体図	7	第18図 S I 05	25
第5図 1・4区、T 6	5	第19図 S I 06	26
第6図 2・4区、T 1・2	11	第20図 S I 07	29
第7図 3区、T 2・4・5・7・10	12	第21図 S I 08	30
第8図 5区	13	第22図 S K 02~05	32
第9図 T 2・5・9	14	第23図 P 01~P 17	33
第10図 T 2・8 (1)	15	第24図 S D 01~04・06・07・S X 02	35
第11図 T 2・8 (2)	16	第25図 S D 05	36
第12図 S I 01 (1)	18	第26図 S X 01	37
第13図 S I 01 (2)	19	第27図 調査区内自然流路位置図	38
第14図 S I 02	20	第28図 遺構外出土遺物	39
		第29図 周辺調査区と本調査区の位置関係図	40

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	3	第9表	S I 07出土遺物	10
第2表	試掘トレンチの遺構確認状況	5	第10表	S I 08出土遺物	10
第3表	S I 01出土遺物	7	第11表	土坑一覧表	31
第4表	S I 02出土遺物	9	第12表	ピット一覧表	32
第5表	S I 03出土遺物	10	第13表	溝一覧表	34
第6表	S I 04出土遺物	10	第14表	S D07出土遺物	34
第7表	S I 05出土遺物	10	第15表	S X01出土遺物	37
第8表	S I 06出土遺物	10	第16表	遺構外遺物	39

図 版 目 次

図版1	1区全景、2区全景	図版13	S I 04
図版2	3区全景、4区全景	図版14	S I 04・05
図版3	5区全景、T 1・2遺構確認状況	図版15	S I 05・06
図版4	T 3・4遺構確認状況	図版16	S I 07・08
図版5	T 5・6遺構確認状況	図版17	S K02~05、P02・03
図版6	T 7~10遺構確認状況	図版18	P04~07・09・10・12~14・16
図版7	1区遺構確認状況、作業風景	図版19	S D01~06
図版8	S I 01	図版20	S X01
図版9	S I 01・02	図版21	出土遺物(1)
図版10	S I 03	図版22	出土遺物(2)
図版11	S I 03	図版23	出土遺物(3)
図版12	S I 03		

I. はしがき

1. 調査に至る経緯

平成19年6月、栃木県宇都宮東谷町のインターパーク宇都宮南54街区において、株式会社福田屋百貨店による（仮称）インターパークビレッジ2の建設が計画された。当該地は、独立行政法人都市再生機構が実施している「宇都宮都市計画事業 東谷・中島土地区画整理事業」地内に所在し、現在、福田屋インターパークビレッジが営業している店舗群の東側にある駐車場が今回の事業予定地である。当地区内には「中島・笹塚遺跡」（県遺跡No.4355）が所在しており、平成7～9年度に財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターによって確認調査が実施され、遺構の存在が確認されている地区に該当した。今回の建設予定地の現況は駐車場用地であり、盛土整地による遺跡の現状保存の処置がなされていたため、地下の掘削を伴う開発に際しては遺跡の未調査地区として発掘調査が必要になった。

調査は、事業主である独立行政法人都市再生機構により委託を受けた有限会社山武考古学研究所が、宇都宮市教育委員会の指導のもと実務にあたった。野外調査は平成19年7月30日から開始し、面積1,700㎡の調査を実施することとなった。

2. 遺跡の位置と環境

地理的環境

中島笹塚遺跡は、県南東部、宇都宮市と上三川町の市町境にあり、宇都宮市街地からは南南東へ約7km、上三川町の中心地からは北へ約6.5kmに位置する。東へ約4.5kmには鬼怒川が、西へ約1kmには田川があつてそれぞれ南流しており、周辺には起伏の少ない田園地帯が広がっている。本遺跡の現況は、以前は水田や畑等の耕作地として利用されていたが、現在は「東谷・中島土地区画整理事業」区域となっており、100haを越える広範囲にわたって先端技術、高度技術産業の研究所や工場や流通業務施設の整備が測られている。また、東側に新4号国道、北側には宇都宮環状線、南側には北関東自動車道が走り、それらと結びついた交通の要衝として発展しつつある。

栃木県の地形は、東部山地、中央部低地、西部山地に分けることができる。東部山地は、八溝、鷲子、鷄足などの山塊からなる八溝山地で、西部山地は、那須、高原、日光、足尾などの山塊からなる下野山地と足尾山地である。東西の山地は南北に連なっており、両者に挟まれるように中央部低地が広がる。中央部低地は関東平野の北縁をなし、山地から延びる丘陵、東西に交互に繰り返される台地及び低地・河川からなる。全体的には南に向かって緩やかに傾斜しており、台地を開析する河川はおおむね南流している。これらの台地と低地・河川は、東から、鬼怒川低地（鬼怒川）、岡本・磯岡台地（宝木面・中位）、田原・願成寺台地（田原面・下位）、田川低地（田川）、神主台地（宝積む寺面・上位）、宇都宮・祇園原台地（宝木面・中位）と称されている。

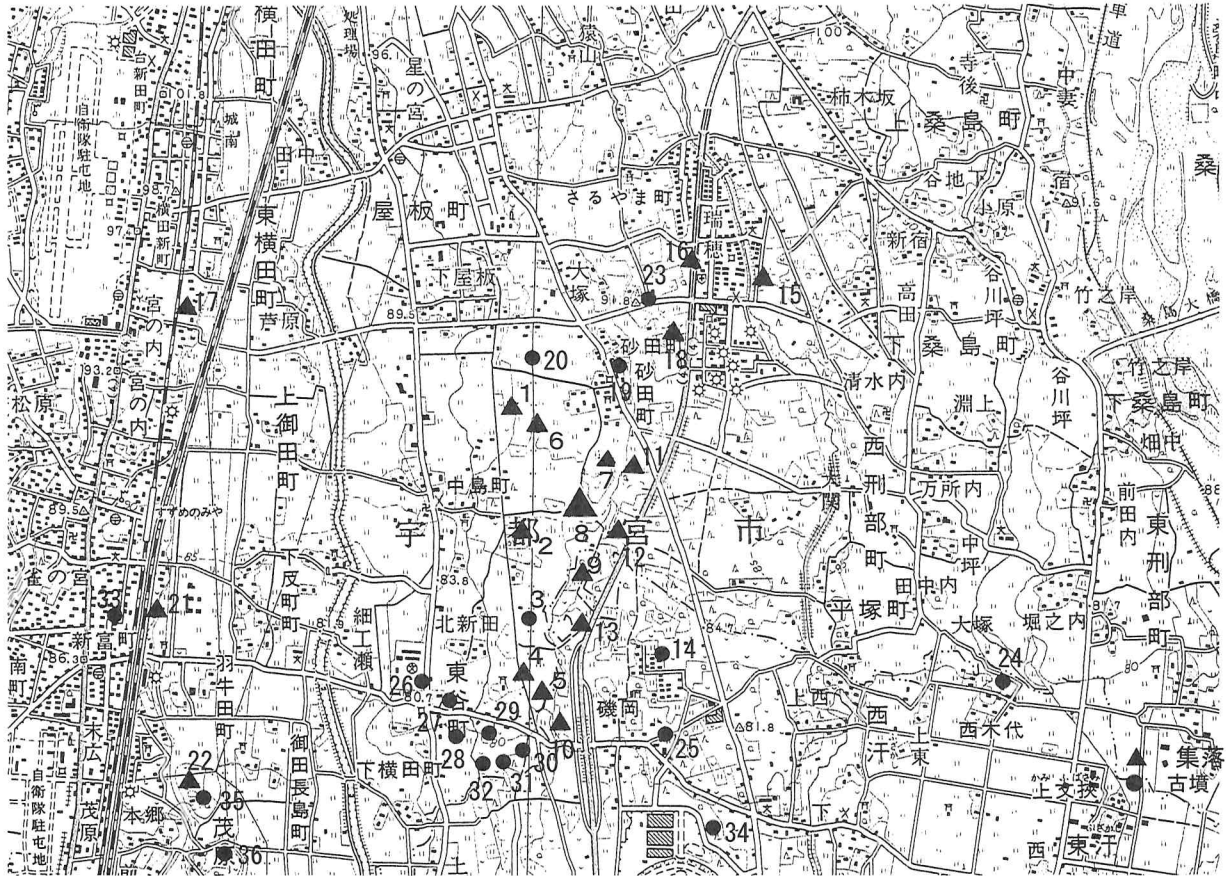
本遺跡は、田原・成願寺台地上にあり、鬼怒川低地（鬼怒川）と田川低地（田川）に挟まれている。両台地内部には、小河川によって形成された細かな開析低地が発達しており、田川低地との比高は8～10mほどである。

本遺跡調査区の標高は約85.7m前後で、調査区の西側に向かってわずかに標高が高くなっている。

歴史的環境

中島笹塚遺跡の周辺には、南北方向に延びる台地に沿って各時代の遺跡が存在する。特に本遺跡で主体となる古墳時代以降の遺跡は数多く、古墳時代～古代にかけての下野国の中心地域のひとつと考えられている。ここでは、旧石器時代から奈良・平安時代にかけての代表的な遺跡について概観してみる。

本遺跡の周辺地域では、旧石器時代の石器や剥片礫群などの出土層位や面的な広がり把握された資料も増加している。旧石器時代の遺物が出土しているのは、薄市遺跡、西赤堀遺跡、島田遺跡、立野遺跡、杉村遺跡等が挙げられる。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1 : 50,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	時期 (古墳は墳形他表示)	No.	遺跡名	種別	時期 (古墳は墳形他表示)
1	砂田遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	19	砂田東遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代
2	立野遺跡	集落跡	縄文～中世	20	砂田A遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代
3	桜稲荷古墳	古墳	円墳か。	21	牛塚東遺跡	集落跡	縄文～奈良時代
4	権現山遺跡	集落跡	弥生～奈良時代	22	権現山北遺跡	集落跡	旧石器～奈良・平安時代
5	杉村遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	23	下桑島西原古墳群	古墳	前方後円墳1基, 円墳2基
6	砂田滝遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	24	高麗神社古墳	古墳	帆立貝式古墳
7	砂田姥沼遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	25	屋敷東浦愛宕塚古墳	古墳	前方後円墳 (後期)
8	中島笹塚遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	26	双子塚古墳	古墳	前方後円墳
9	磯岡北遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	27	笹塚古墳	古墳	前方後円墳 (中期)
10	磯岡遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	28	鶴舞塚古墳	古墳	円墳 (中期)
11	西刑部西原遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	29	原古墳群	古墳	円墳8基
12	琴平塚古墳	古墳	帆立貝式古墳 (後期)	30	車塚古墳群	古墳	円墳5基
13	杉村北遺跡	集落跡	縄文～奈良・平安時代	31	権現塚古墳	古墳	円墳
14	西赤堀遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	32	松の塚古墳	古墳	円墳
15	瑞穂野団地遺跡	集落跡	旧石器～奈良・平安時代	33	雀の宮牛塚古墳	古墳	前方後円墳
16	猿山遺跡	集落跡	奈良・平安時代	34	西赤堀狐塚古墳	古墳	前方後円墳
17	宮の内遺跡	集落跡	縄文～近世	35	権現山古墳	古墳	前方後円墳 (前期)
18	上横田A遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	36	大日塚古墳	古墳	前方後円墳 (前期)

縄文時代では、砂田遺跡から縄文時代早期の陥し穴、島田遺跡からは縄文時代中期の竪穴住居跡や袋状土坑が検出されている。薄市遺跡では縄文時代早期の撚糸文土器から前期の黒浜式土器、浮島式土器、晩期の姥山式土器、大洞式土器等が出土している。縄文時代後晩期の遺跡では石川坪遺跡等が挙げられる。

弥生時代では、中期後半以降の遺跡が見られ、杉村遺跡、磯岡遺跡、仏沼遺跡等が挙げられ、後期では二軒屋遺跡を始め、瑞穂野団地内遺跡や権現山北遺跡等から同時期の遺構や遺物が確認されている。

古墳時代中期には、笹塚古墳を中心とする東谷古墳群、砂田遺跡、砂田東遺跡、立野遺跡、杉村遺跡、磯岡遺跡等に見られるような大規模な集落も生まれ、権現山遺跡では豪族居館跡も確認されている。後期になるとさらに集落遺跡の数も増加し、小規模の円墳群が見られるようになる。

奈良時代以降では、本地域は下野国河内郡刑部郷にあたると考えられ、下野の中心地から北北東に延びる東山道が西刑部西原遺跡の南半部の概調査部分で確認されている。周辺には上横田A遺跡、猿山遺跡、砂田遺跡、杉村北遺跡、瑞穂野団地遺跡等の奈良・平安時代の遺跡が見られる。

3. 調査の方法と経過

調査の方法

調査は、(株)福田屋百貨店、中村土建株式会社が行う施設建設工事に伴う、埋蔵文化財記録保存の措置として行われた。施設建設部分の1～3区と埋設管敷設関係の4・5区、その他に側溝・埋設管敷設関係でT1～10のトレンチによる遺構確認調査区に分かれる。T1～10のトレンチ遺構確認区では、工事で埋設管等の掘削深度が遺構残存深度に達する場合に遺構の掘り込み調査を実施し、深度が達しない場合平面記録にとどめた。遺構番号は今回の調査の中で、竪穴住居跡ならばS I 01から順番に通し番号を付することとした。

グリッドの設定は、これまでとちぎ生涯学習文化財団の行っている『東谷・中島地区遺跡群』の発掘調査に従って、国家座標第IX系X=+52、800m、Y=+6、400mを起点とするグリッドを踏襲した。

グリッド杭は20×20mの範囲を単位として、起点から南へ向かって0、1、2、…、東西方向をY軸として起点から東へ向かって0、1、2、…と付番されている。

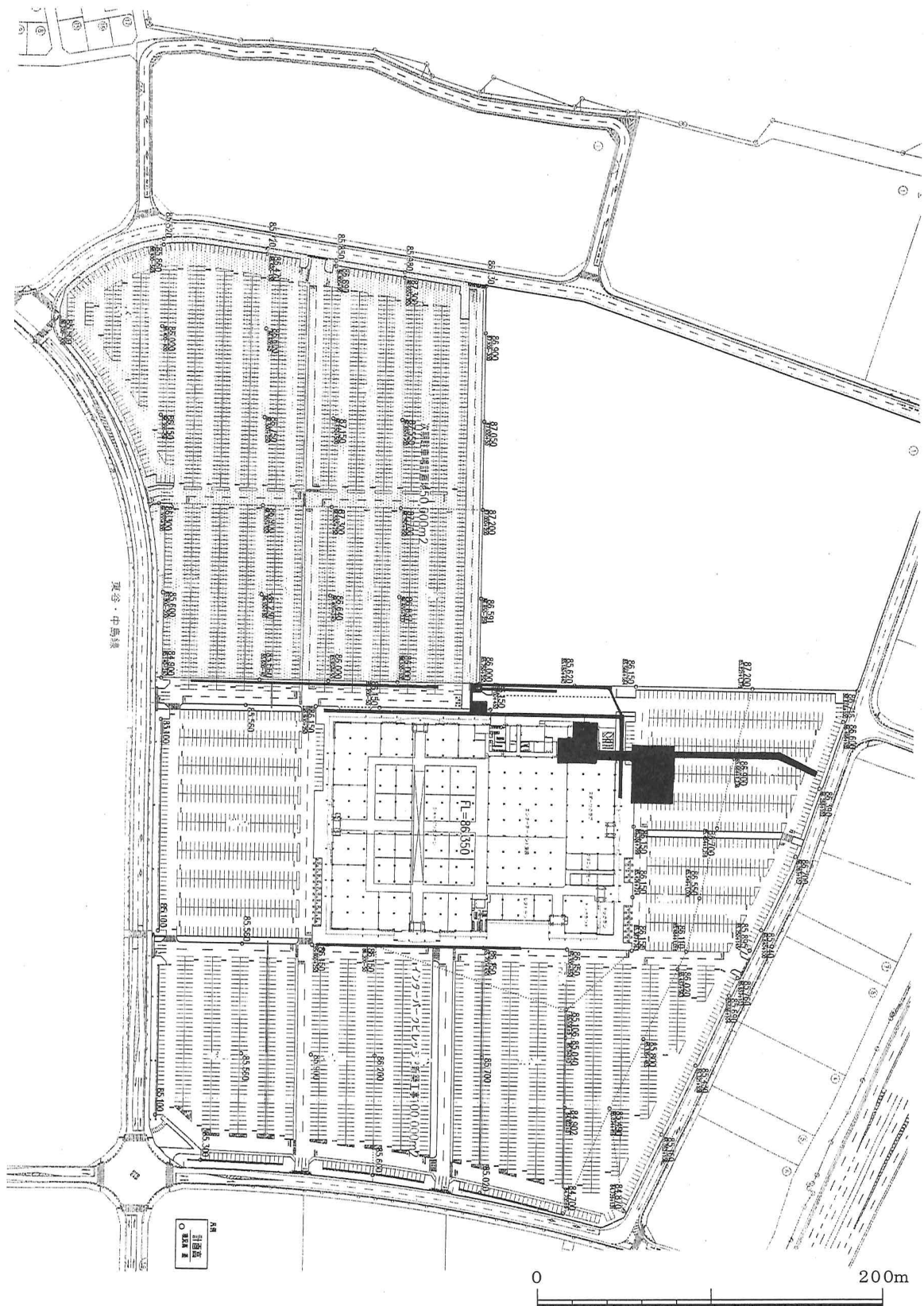
調査は表土掘削、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

遺構の記録は1/20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の規模や性格により、1/10、1/40縮尺を使用した。遺跡全測図は完掘個別遺構図をもとに作成した。

写真撮影は調査の各段階に応じて随時行い、白黒35mm判、白黒6×7インチ判、カラーリバーサル35mm判、デジタルカメラを使用した。

調査の経過

調査は平成19年7月30日から平成19年9月11日まで行った。7月30日から1区の重機による表土除去作業を開始した。8月2日から作業員による遺構確認作業を行い、1区からは竪穴住居跡7軒、溝1条、小ピット3基が検出された。2区からは河道と考えられる幅広の落ち込みが確認されたが遺構は検出されなかった。自然河道については、一部機械掘削を行ったが、基本的に河岸部の平面ラインの検出にとどめた。3区からも遺構は確認されなかった。8月6日から1区の土坑、溝の調査に入った。翌7日には1号住居跡の掘り込みを開始し、順次遺構調査を進めた。トレンチ試掘は8月2日にT1・T2、8月22日にT3、8月31日にT4～6を行った。T2とT5の調査では、2区から延びる自然河道の跡が確認された。T4では竪穴住居跡が確認され、工事の掘削深度が深いため遺構の掘り込み調査を実施した。T5は側溝の敷設のための試掘で掘り下げ深度が浅く、遺構確認面まで下げきれず、T4で確認していた住居跡の調査はできなかった。9月4日にT7・8、9月10日にT9・10の試掘調査を行い、状況に応じて掘り込み調査を実施した。9月11日にはすべての作業が終了し、現地における調査を完了した。



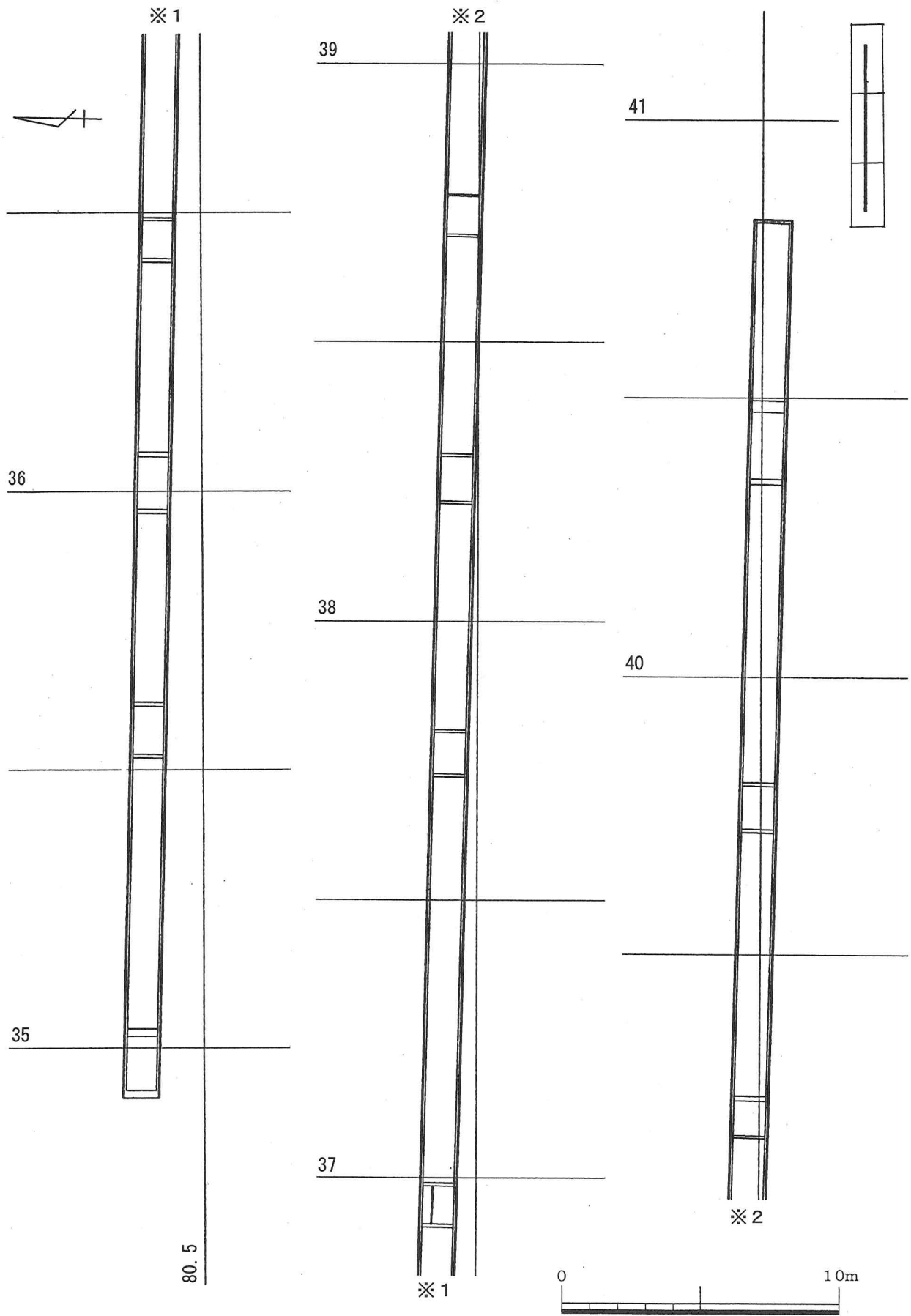
第2図 遺跡の位置図

5. 試掘調査の概要

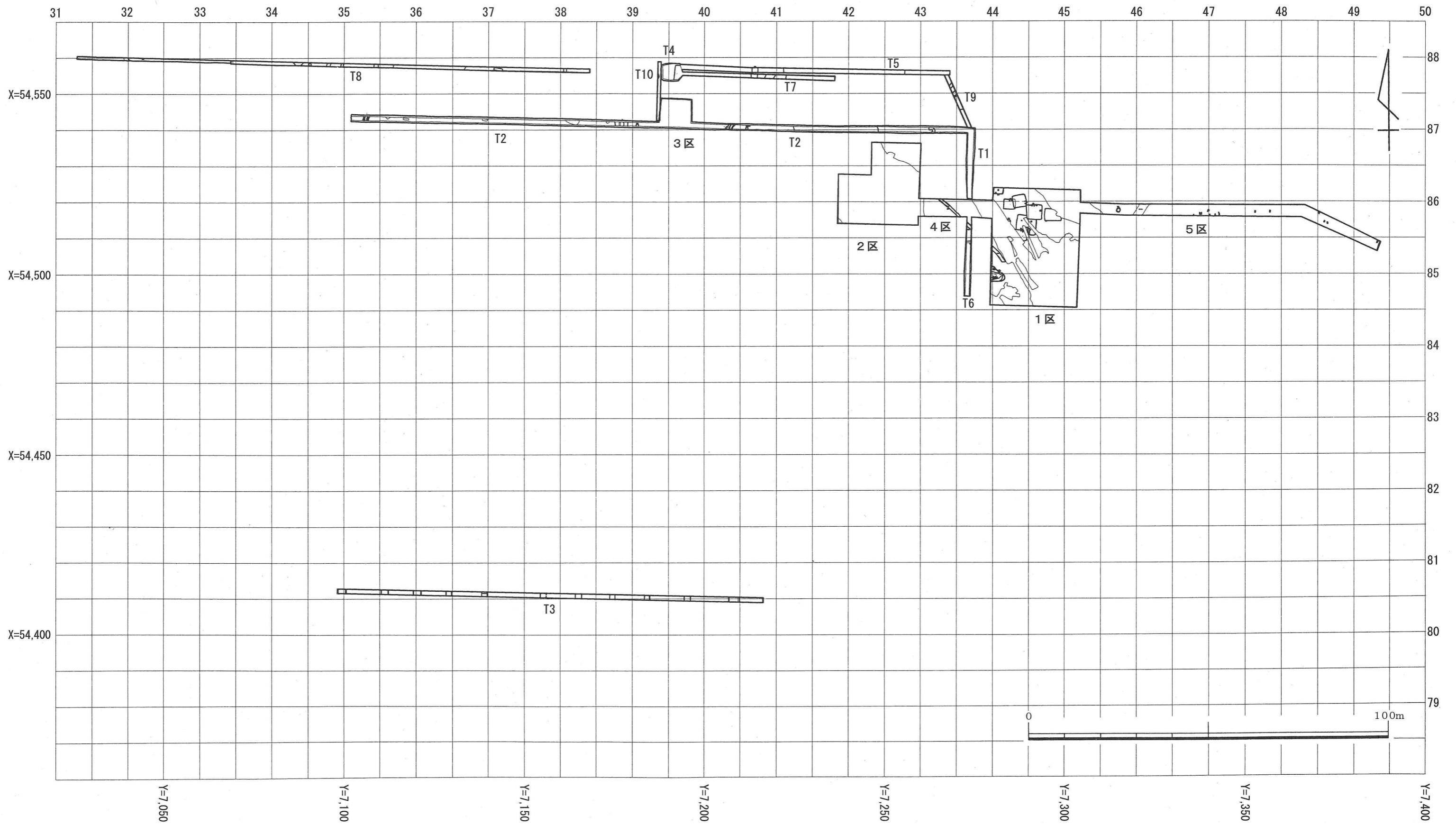
調査の方法で述べたように、本調査を実施する1～5区以外の側溝・埋設管敷設予定箇所については、トレンチ試掘による遺構確認作業を行った。遺構の残存深度と工事掘削深度の関係によっては遺構確認のみで、掘り込み調査を実施していない遺構もある。各トレンチの遺構確認状況については概要を第2表にまとめておく。

第2表 試掘トレンチ遺構確認状況

トレンチ名	竪穴住居跡	土坑	溝	不明遺構	攪乱・風倒木痕	自然河道	確認面の深さ(m)
T 1	—	—	—	—	—	—	北:0.91 南:0.99
T 2	—	SK02・06	SD01・02・03・04	SX02	5カ所	○	西:1.20 東:0.63
T 3	—	—	—	—	—	—	西:1.40 東:1.13
T 4	SI08	—	—	—	—	—	0.79
T 5	—	—	SD06	—	—	○	西:0.43 東:0.40
T 6	—	—	—	—	—	—	北:0.60 南:0.95
T 7	SI08	—	SD06・07	—	—	○	0.75
T 8	—	SK07	SD08・09・10・11	SX03	2カ所	—	0.79
T 9	—	—	—	—	3カ所	—	北:0.41 南:1.01
T 10	—	SK08	—	—	—	—	0.76



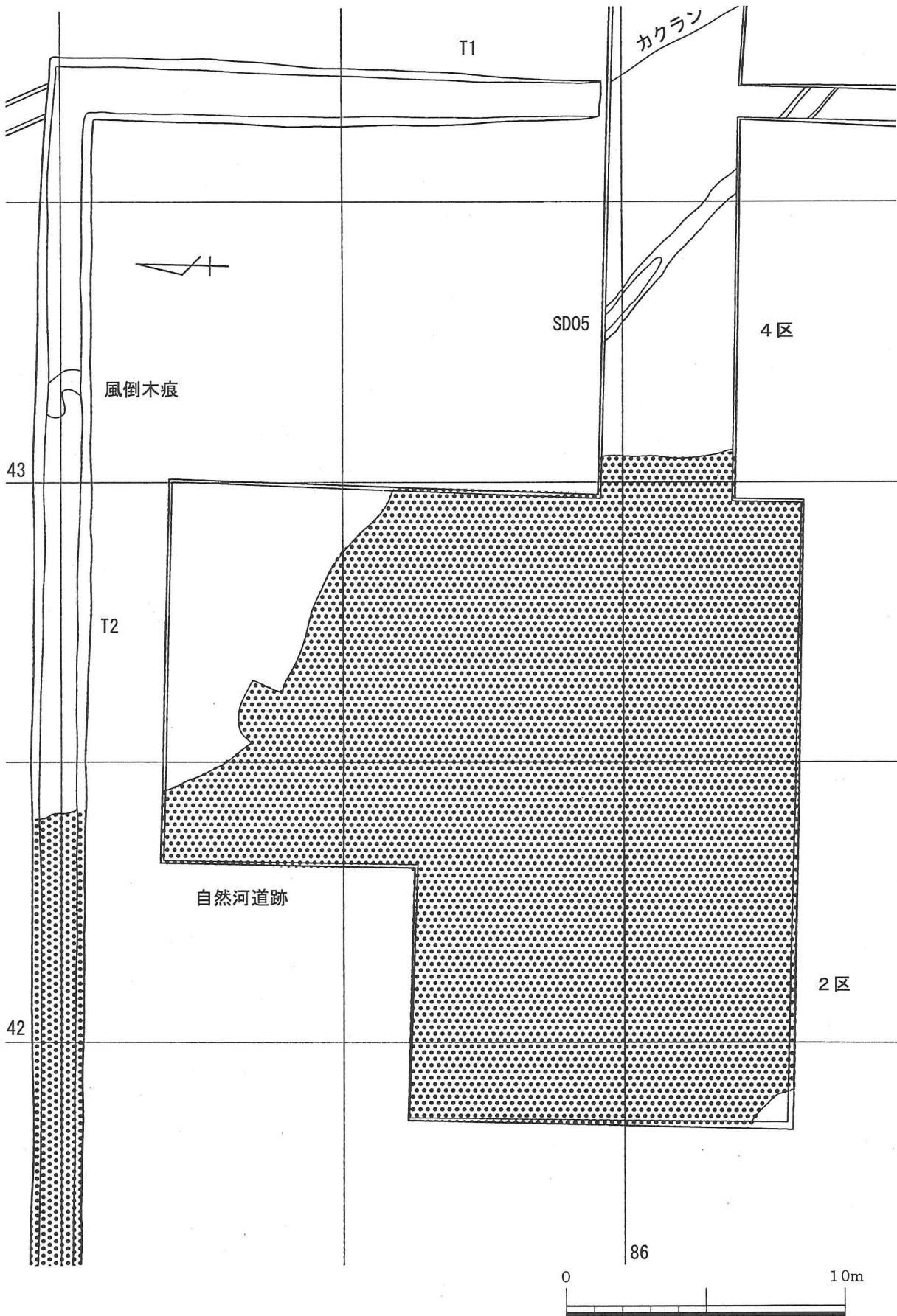
第3図 T3



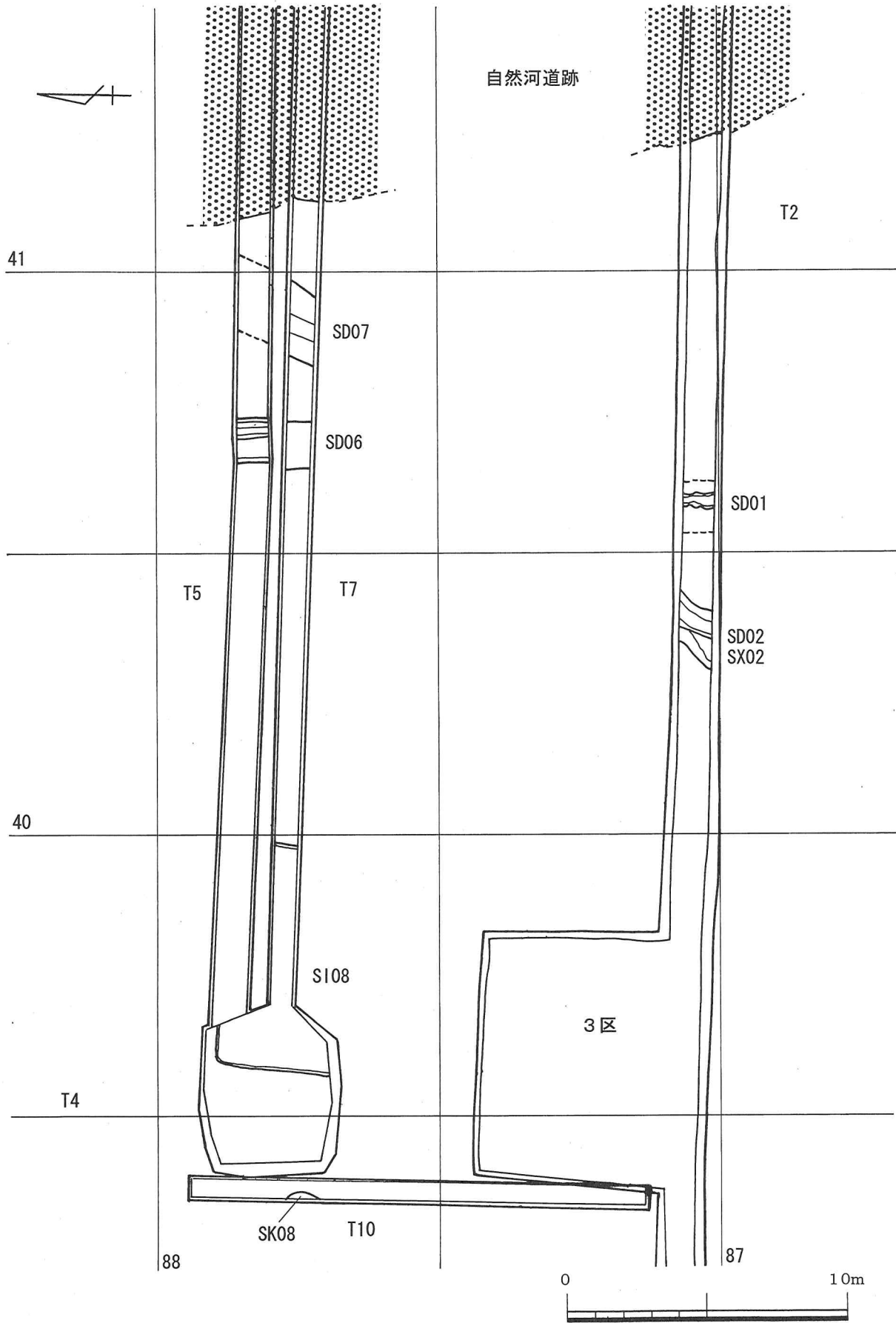
第4図 調査区 全体図



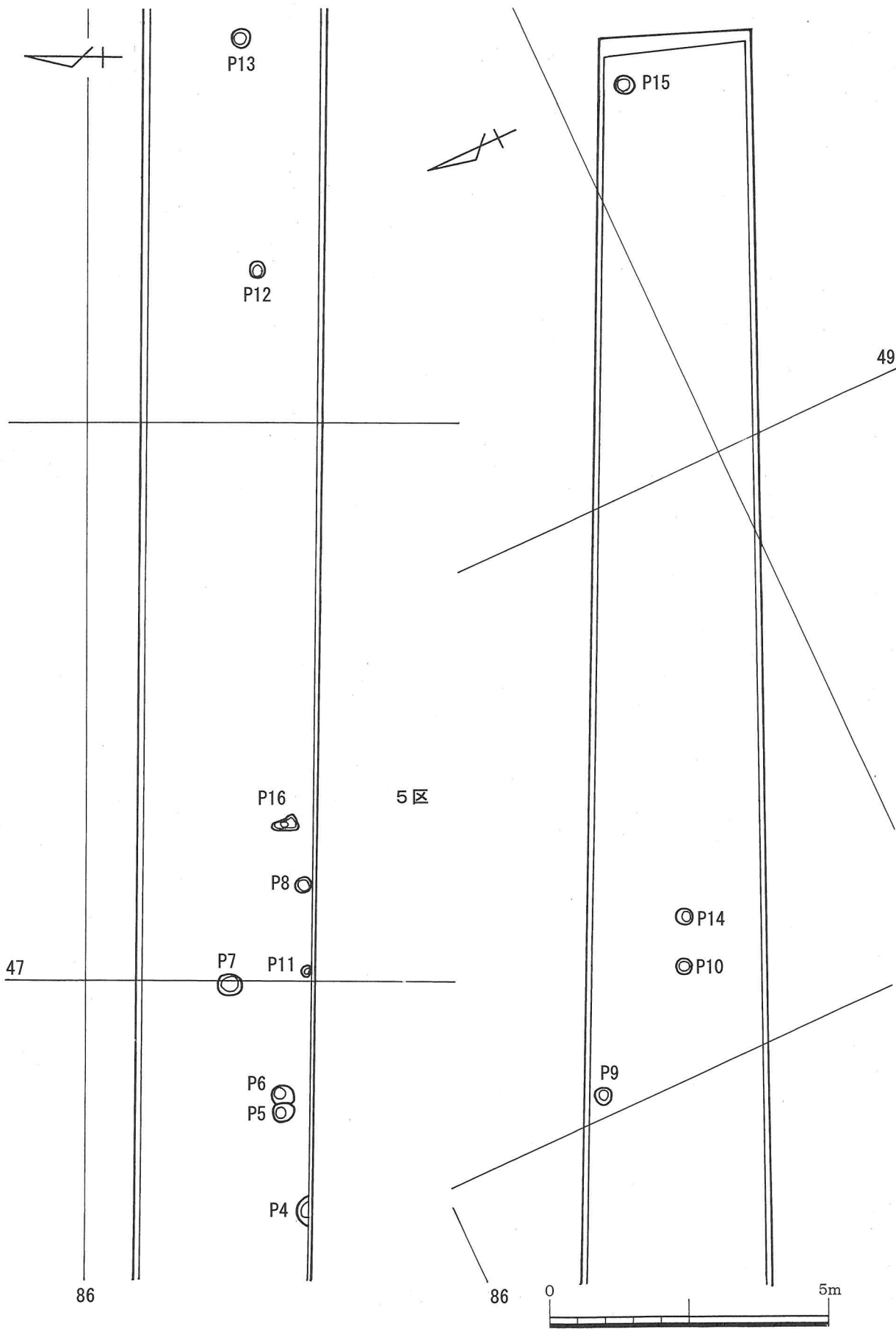
第5図 1・4区 T6



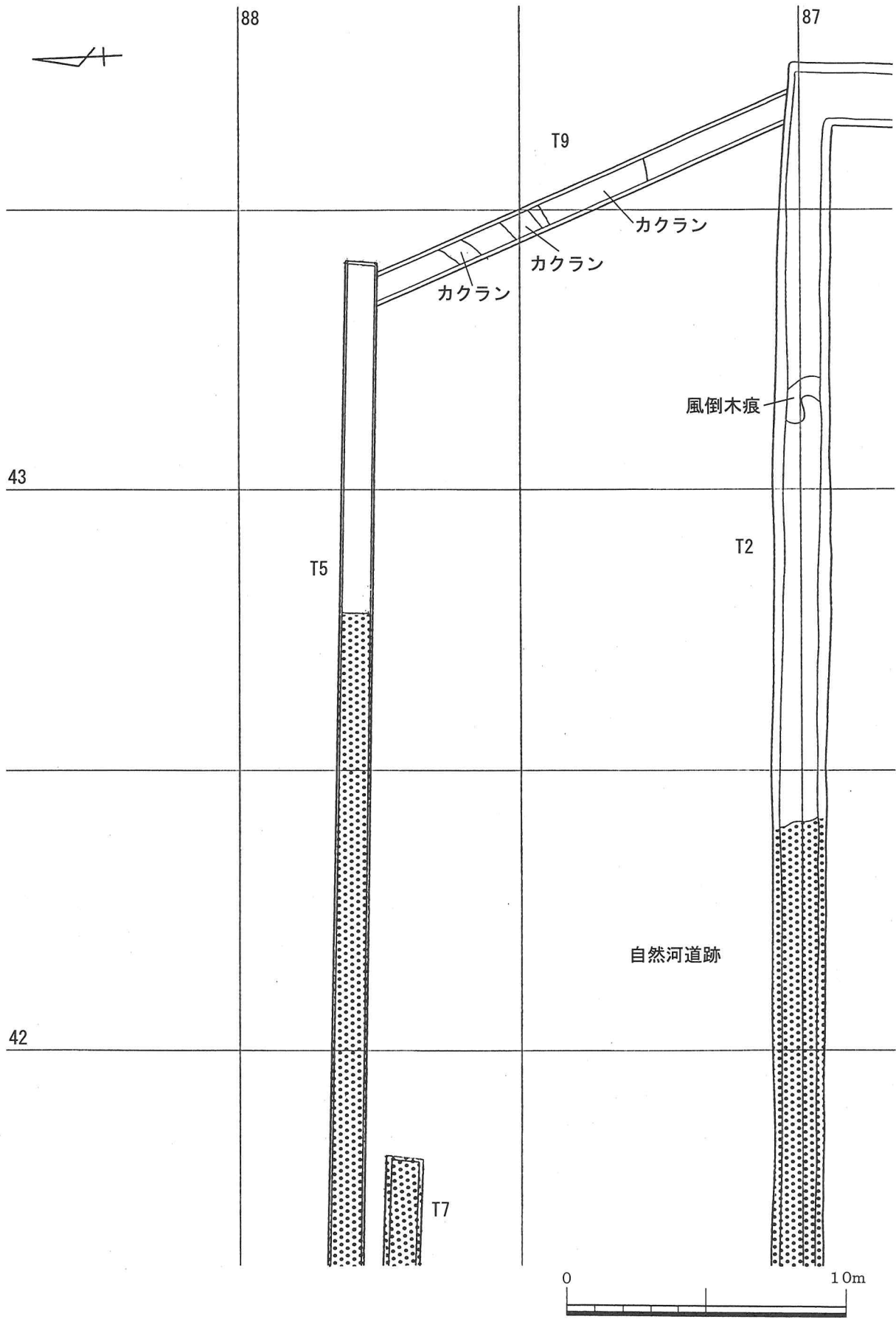
第6図 2・4区 T1・2・6



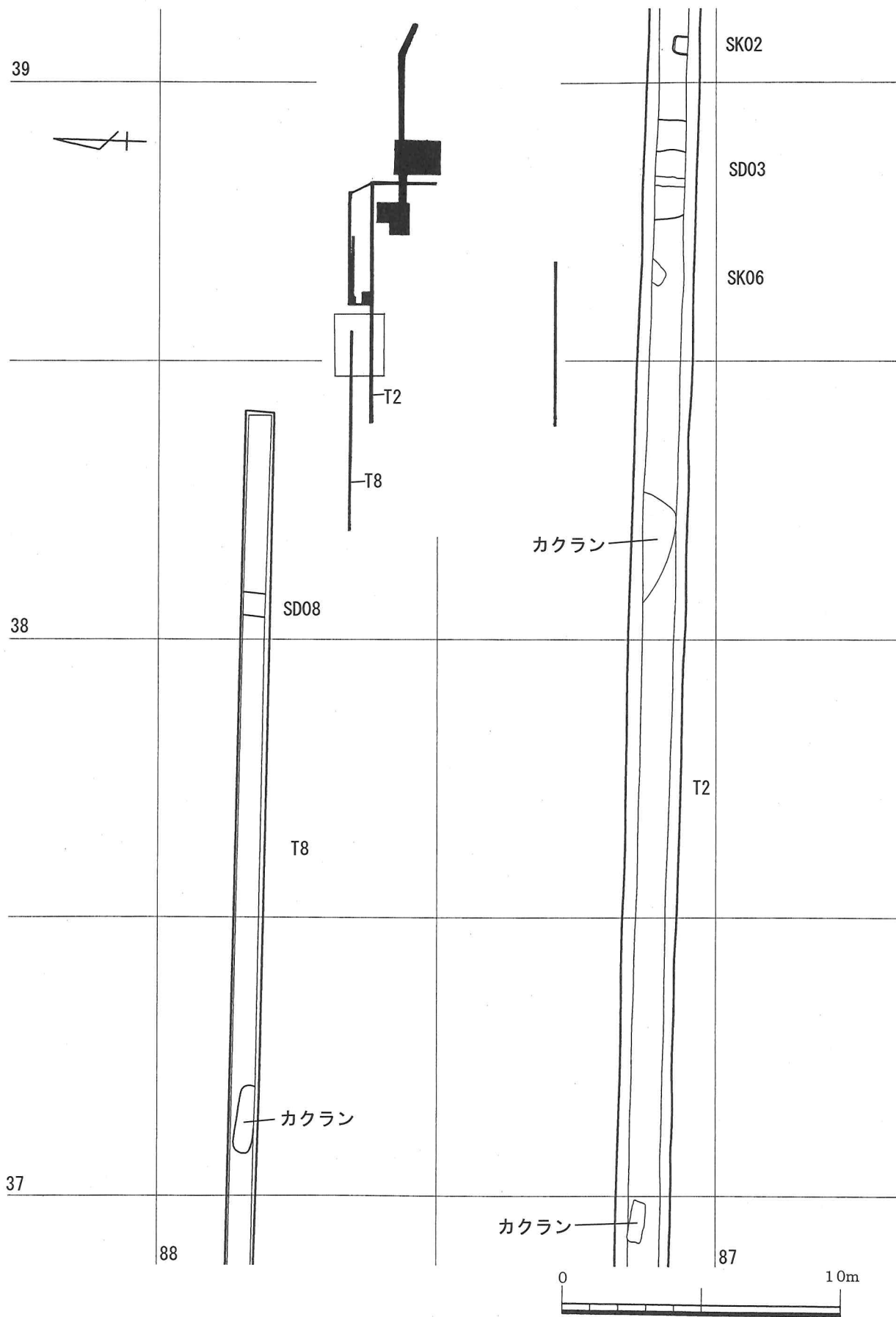
第7图 3区 T2·4·5·7·10



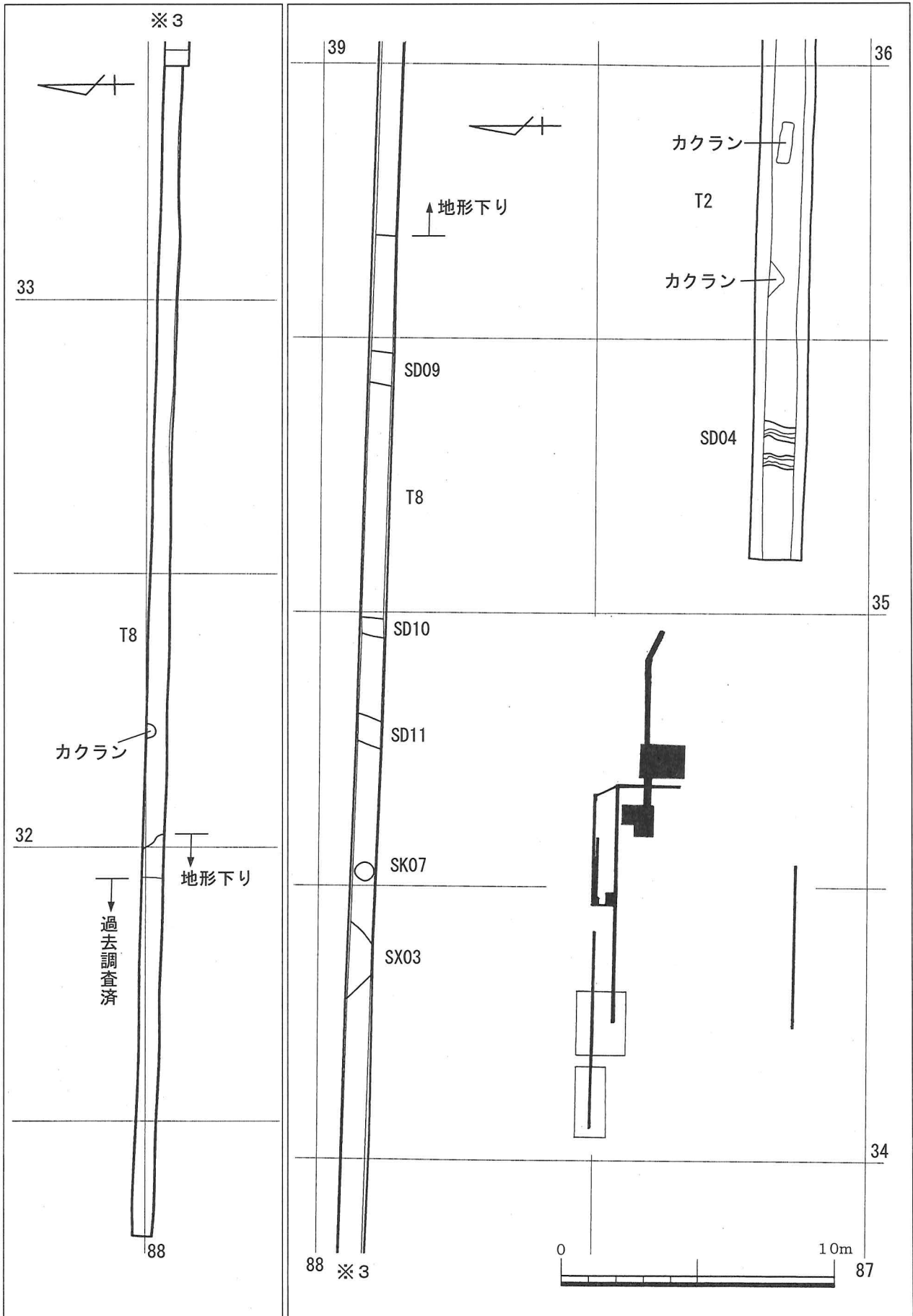
第8图 5区



第9図 T2・5・9



第10図 T2・8(1)



第11図 T2・8 (2)

II 遺構と遺物

調査区内からは、竪穴住居跡8軒、土坑8基、小ピット17基、溝11条、不明遺構3基が確認されている。竪穴住居跡主体の集落遺跡で、古墳時代後期の6世紀後葉から8世紀頃の遺物が出土している。その他の遺構では、5号溝が古墳時代後期の遺物を出土しているが、その他の溝、土坑や小ピットの時期は不明である。

1. 竪穴住居跡

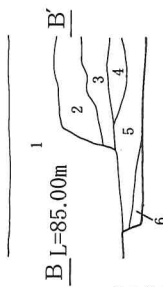
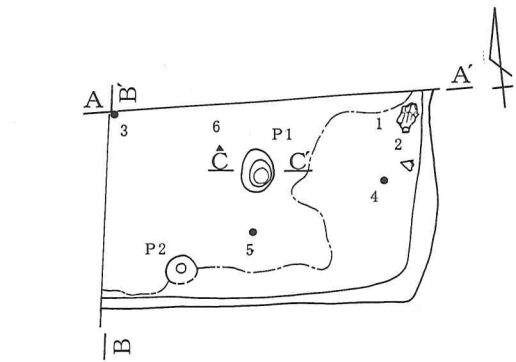
S I O 1 (第12・13図、図版8・9)

位置 X=86、Y=44 **重複** なし **平面形状・規模** 本遺構は1地区の北西角に住居跡の南東コーナー部が確認されているが、調査区外に延びているため全体形状はとらえられない。現況で東西方向2.65m、南北方向1.6mである。主軸方向はN-7°-E。 **覆土** 3層の自然堆積。 **壁** 残存高0.18m **床** 住居跡コーナー部付近を除いて硬化した床面が残存している。 **柱穴** 最終床面で2ヶ所。床下で2ヶ所。P1は主柱穴で径0.26~0.33m、深さ0.29m。P2は南壁下端から0.22m離れた位置に中心があり、径0.23m、深さ0.14mでほぼ垂直に掘られている。出入り口ピットと考えられる。P3・4は床下の掘り方調査で確認されたピットで、古い段階のピットと考えられる。おそらく位置関係からP2と同じ性格を持ったピットと推測される。 **周溝** なし。 **出土遺物** 住居跡東壁際の床面から覆土下層にかけて1・2・4の土師器の甕が出土している。4の脚台の付いた土師器甕は、胴部にハケメ痕の残るヘラナデ調整が施されている。 **所見** 主柱穴を持った竪穴住居跡で、出土している遺物は6世紀後葉から7世紀前葉頃のものかと思われる。

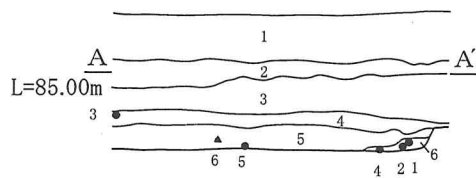
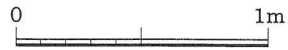
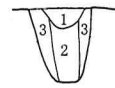
第3表 S I O 1号住居跡出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 甕	口径(13.6) 底径 器高[11.1]	胴部外面ヘラケズリ。内面丁寧なナデ。	外:淡橙褐色 内:淡橙褐色	石英粒、長石粒 普通	覆土 口縁~胴部1/3	SI01No.1
2	土師器 甕	口径(13.4) 底径 器高[7.9]	胴部外面ヘラケズリ。内面ナデ。	外:暗褐色 内:淡灰褐色	石英・金雲母粒、 チャート礫 普通	覆土 口縁部の1/4	SI01No.2
3	土師器 甕	口径(12.4) 底径 器高[4.7]	胴部外面縦位ヘラケズリ。内面ナデ。	外:淡褐色 内:淡褐色	微砂粒、スコリア粒 普通	覆土 口縁部片	SI01No.6
4	土師器 台付甕	口径(15.6) 底径 器高[15.1]	胴部外面ハケメ痕の残るヘラナデ、脚部ヘラケズリ。内面ナデ。	外:暗褐色 内:暗褐色	砂粒 普通	床面 口縁部2/3・脚部 欠損	SI01No.3
5	須恵器 甕	口径- 底径- 器高-	外面平行叩き。	外:灰色 内:灰色	長石 普通	床面 胴部片	SI01No.7
6	石製品 編物石	全長12.7 幅 5.2 厚み3.0 重量335.9	不整長方形の自然石。細粒安山岩。			覆土	SI01No.10



CL=84.50m C'



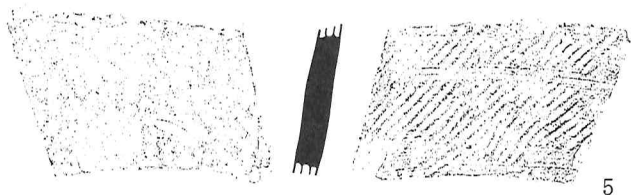
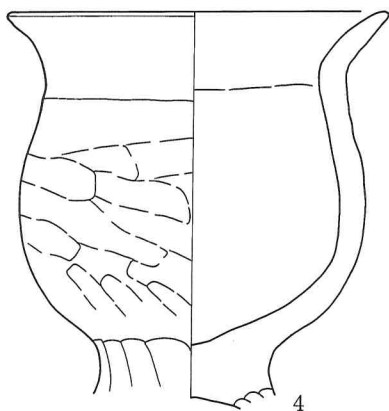
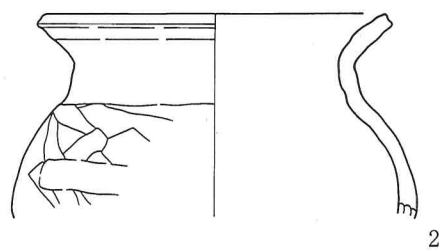
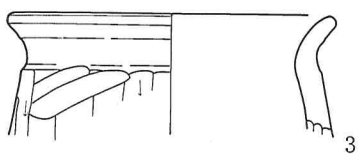
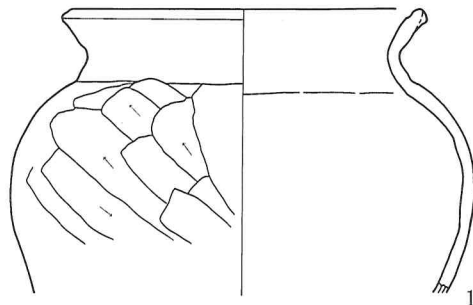
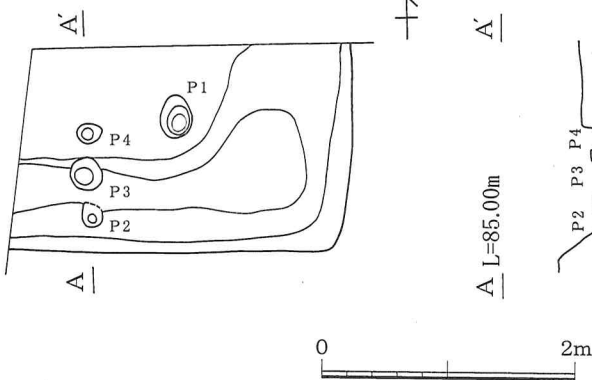
SIO1-P1

- 第1層 黒褐色 (ローム粒少量、住居跡覆土、ややしまりあり)
- 第2層 暗褐色 (ローム粒多量、柱痕覆土、やわらかい)
- 第3層 黒褐色 (ローム粒多量、ロームブロック多量、掘方充填土、しまりあり)

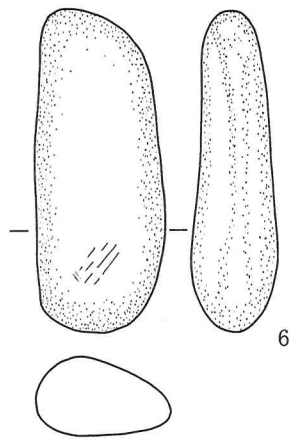
SIO1

- 第1層 にぶい黄褐色 (上層に川原石、下層にロームブロックを含む客土層)
- 第2層 褐色 (ロームブロック多量含む客土層)
- 第3層 暗褐色 (ロームブロック少量含む客土層)
- 第4層 黒褐色 (ローム粒少量、しまりあり)
- 第5層 黒褐色 (ローム多量、ロームブロック少量、粘性あり、しまりあり)
- 第6層 黒色 (ローム粒少量、粘性あり、しまりあり)

掘り方



第12図 SIO1 (1)



第13図 S I O 1 (2)

S I O 2 (第14図、図版9)

位置 X=85・86、Y=44 重複 S I O 5の東壁を切り込んでおり、本遺構が新しい。平面形状・規模 3.70×3.80mの方形で、主軸N-81°-E。覆土 3層の自然堆積。壁 残存高0.13m 床 中央部から東側が特に硬化している。柱穴 主柱穴はなし。ピットは2ヶ所。P 1は径0.23~0.28m、深さ0.09mで出入り口ピットと考えられる。P 2は径0.22~0.25m、深さ0.02m、カマド右袖脇にあいた非常に浅いくぼみ穴で、周囲に床面の踏みしめが見られない点やカマドとの位置関係から見て、水甕等のカマド関連具の設置跡の可能性が考えられる。周溝 なし カマド 東壁中央から南寄りの位置にあり、最大幅1.02m、袖部奥行き0.56m、燃烧室幅0.40m、燃烧室奥行き0.75mを測る。袖部は灰色粘土を主体として構築している。右袖外面にはにぶい褐色粘土を貼り付けている。出土遺物 1の土師器甕はP 1付近の覆土から小片で出土している。

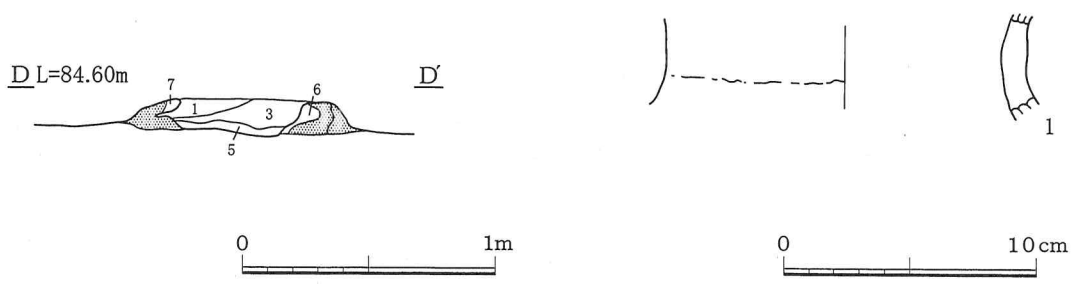
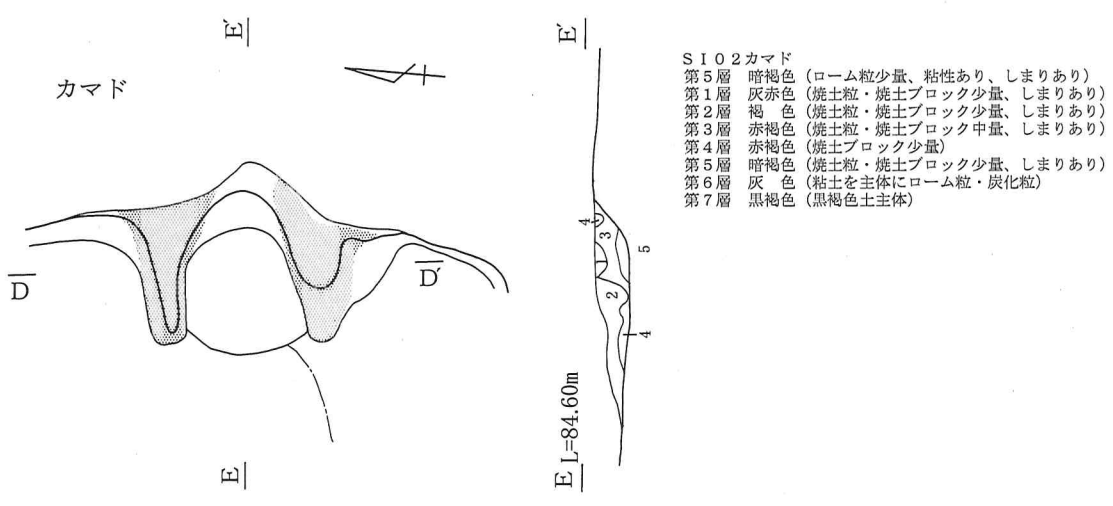
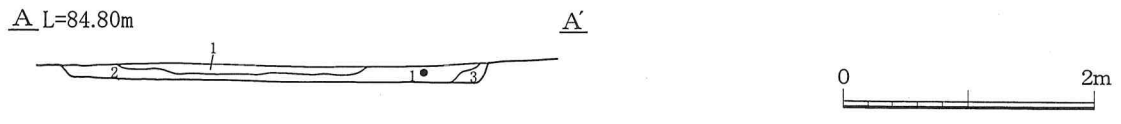
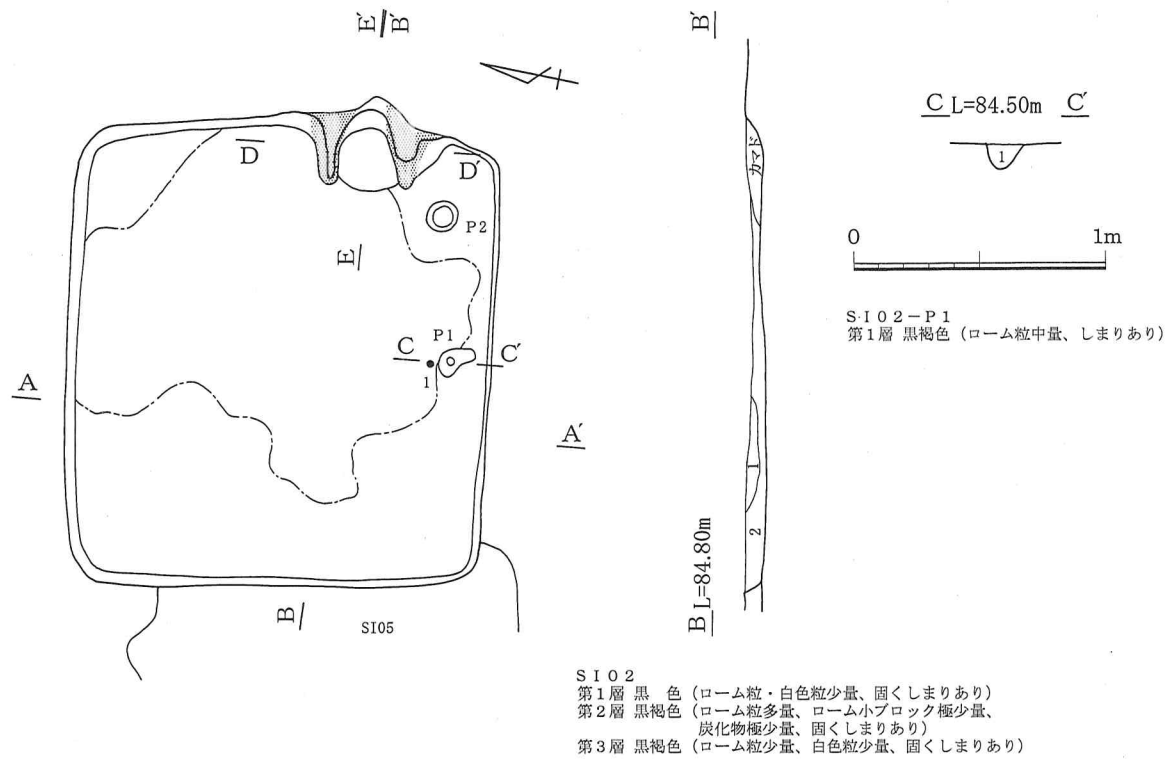
第4表 S I O 2号住居跡出土遺物

[] 残存値、() 推定値

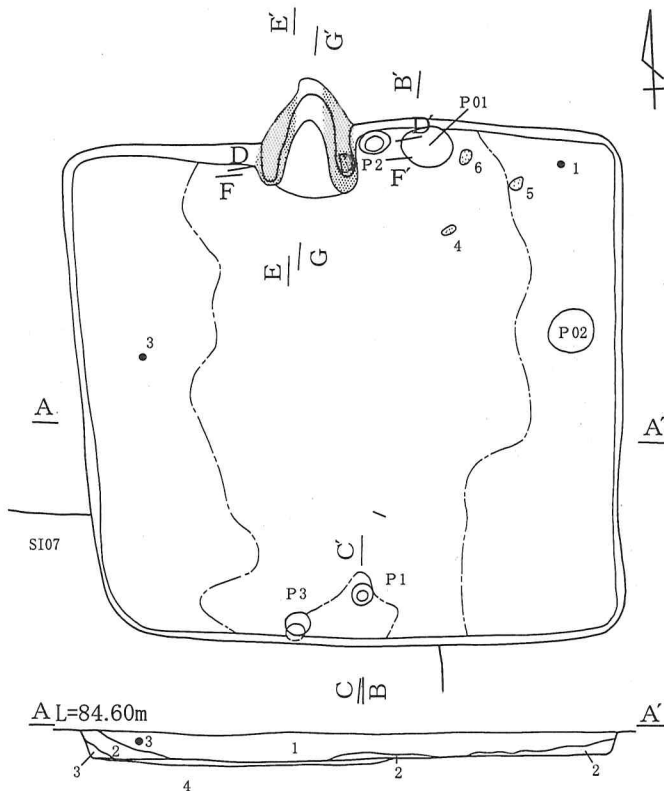
No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 甕	口径 底径 器高[3.2]	頸部内外面ヨコナデ。	外:淡茶褐色 内:淡茶褐色	砂粒、スコリア粒 普通	覆土(2層) 頸部破片	SI02No.1

S I O 3 (第15・16図、図版10~12)

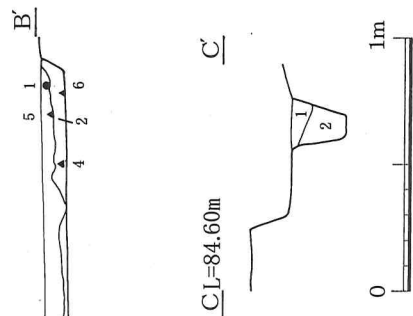
位置 X=85、Y=44 重複 S I O 7の北壁を切り込んでおり、本遺構が新しい。P O 1・P O 2は本遺構の床面を掘り込んでいる。平面形状・規模 4.42×4.16mの方形で、主軸はN-3°-W。覆土 3層の自然堆積。壁 残存高0.25m。床 東西の壁際沿いを除いた住居中央部分が硬化している。床下掘り方の掘り込みは住居跡西側寄りに浅く見られる。柱穴 主柱穴はなし。ピットは3ヶ所。P 1は径0.16~0.17m、深さ0.22mで出入り口



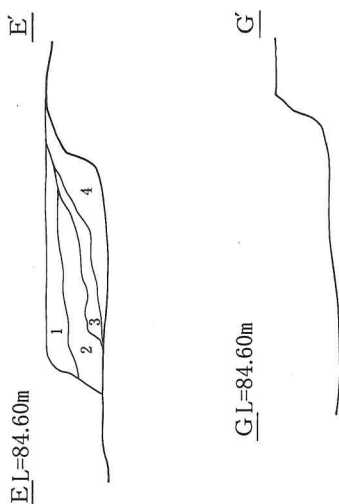
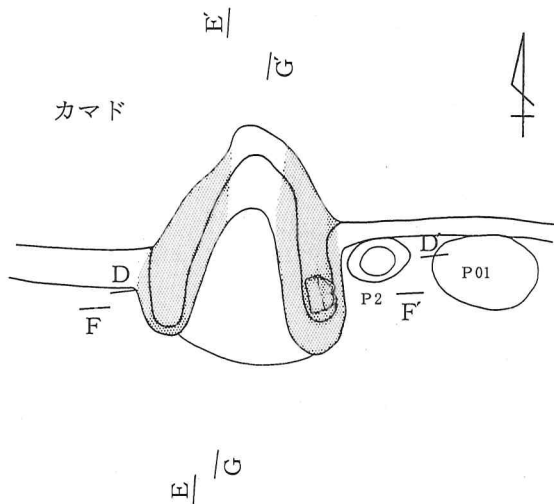
第14図 S102
- 20 -



- SIO3
 第1層 黒褐色 (ローム粒中量、ローム小ブロック少量、炭化物少量、しまりあり、埋土か)
 第2層 黒褐色 (ローム粒少量、ローム小ブロック少量、炭化物少量、しまりあり)
 第3層 黒褐色 (ローム粒多量、ローム小ブロック多量、しまりあり)
 第4層 黒褐色 (ローム小・中ブロック多量、しまりあり、床下掘り方埋土)



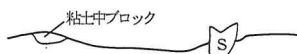
- SIO3-P1
 第1層 黒褐色 (ローム粒多量、ややしまりあり)
 第2層 黒褐色 (ローム粒多量、ローム小ブロック中量、ややしまりあり)



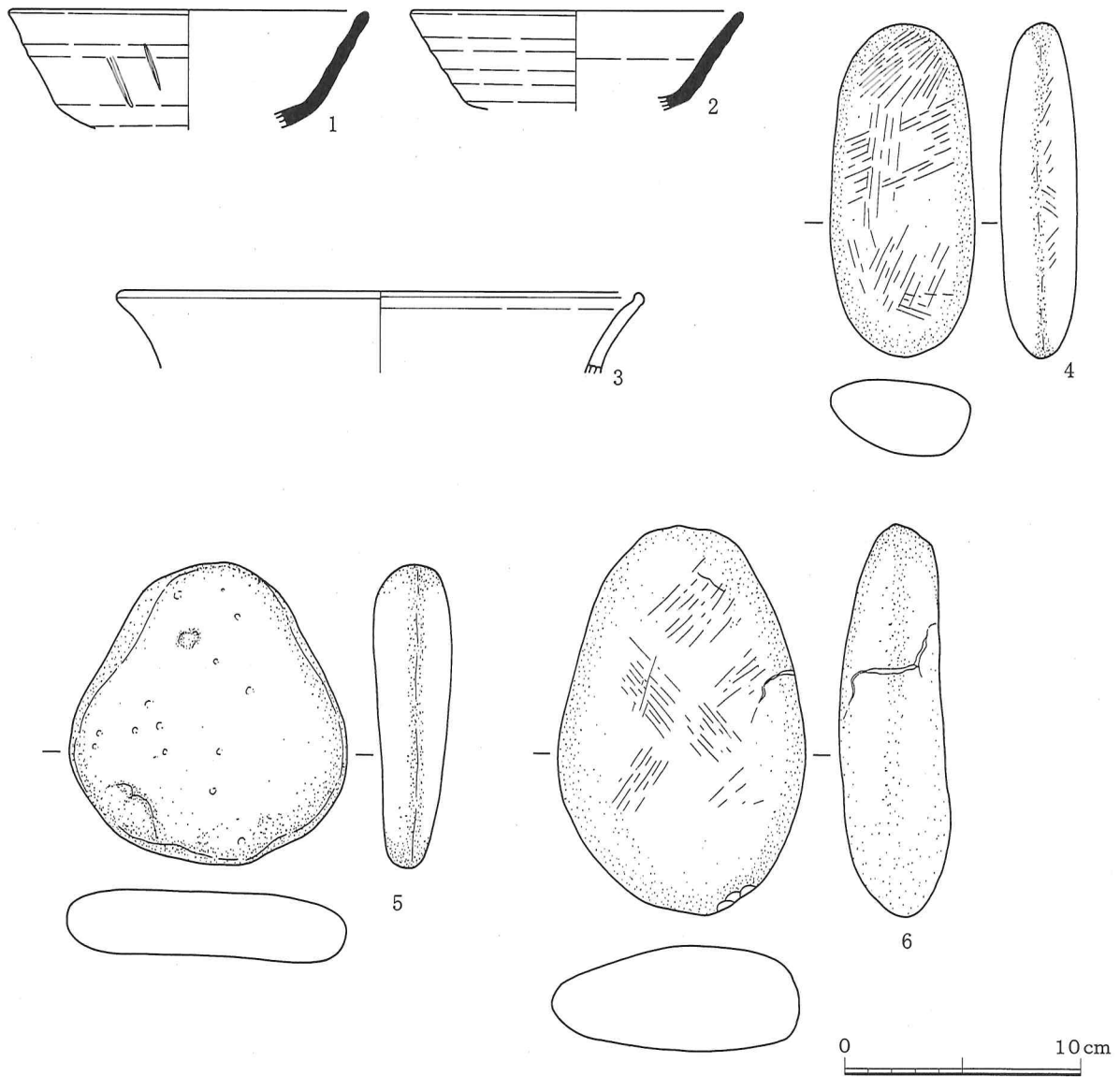
- SIO3 カマド
 第1層 暗褐色 (焼土粒少量、固くしまりあり)
 第2層 暗褐色 (焼土粒・焼土ブロック少量、固くしまりあり)
 第3層 褐色 (焼土粒・焼土ブロック多量、固くしまりあり)
 第4層 暗褐色 (焼土粒少量、灰中量、ややしまりあり)



- SIO3-P2
 第1層 黒褐色 (ローム粒中量、やわらかい)



第15図 SIO3 (1)



第16図 S I O 3 (2)

ピットと考えられる。P 2 は径0.17~0.24m、深さ0.07mでカマド右袖脇にあいている。P 3 は径0.16~0.21m、深さ0.52mでP 1 に近い住居南壁直下にあいている。周溝なしカマド北壁中央やや西寄りの位置にあり、最大幅0.75m、袖部奥行き0.55m、燃烧室幅0.32m、燃烧室奥行き0.95mを測る。右袖部には袖先端から奥に向かって0.25mの位置に角礫柱状の石材を立て、それを芯材として左袖部では焼土混じりのにぶい褐色粘土、右袖では灰色粘土を主体にし、両袖の内側にはにぶい褐色粘土のブロックが見られる。袖部から奥壁に至る部分の貼り付け粘土は3~4cm大の小礫以外比較的混じりのない粘土が使用されている。出土遺物 覆土中から1・2の須恵器の坏、3の土師器の甕が破片で出土している。石製品では、4の織物石、5・6の台石状の自然石が覆土から出土している。所見 出土遺物から8世紀代の住居跡と考えられる。

第5表 S I O 3号住居跡出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特 徴	色 調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
2	須恵器 坏	口径(15.0) 底径 器高[4.9]	底部外面回転ヘラケズリ。	外:淡灰褐色 内:灰色	石英粒、白色礫、ス 普通ア 普通	P 1 覆土 15%	SI03No.3
2	須恵器 坏	口径(13.2) 底径 器高	底部外面回転ヘラケズリ。	外:灰色 内:灰色	半透明粒 普通	覆土 15%	SI03フク土
1	土師器 坏	口径(21.8) 底径 器高	口縁部内外面ヨコナデ。	外:淡橙褐色 内:淡灰褐色	細砂粒	覆土 口縁部破片	SI03フク土
4	石製品 台石	全長13.9 幅 6.0 厚み3.2 重量434.3	扁平で長楕円形の自然石。片面 に擦痕あり。細粒安山岩。			覆土	SI03No.12
5	石製品 台石	全長12.8 幅 11.7 厚み2.8 重量612.6	扁平で楕円形の自然石。安山岩。 片面に敲打痕あり。			覆土	SI03No.9
6	石製品 編物石	全長16.3 幅 10.3 厚み4.3 重量1142	扁平で楕円形の自然石。細粒安 山岩。片面に敲打痕あり。			覆土	SI03No.10

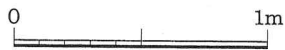
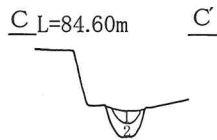
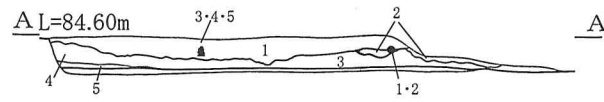
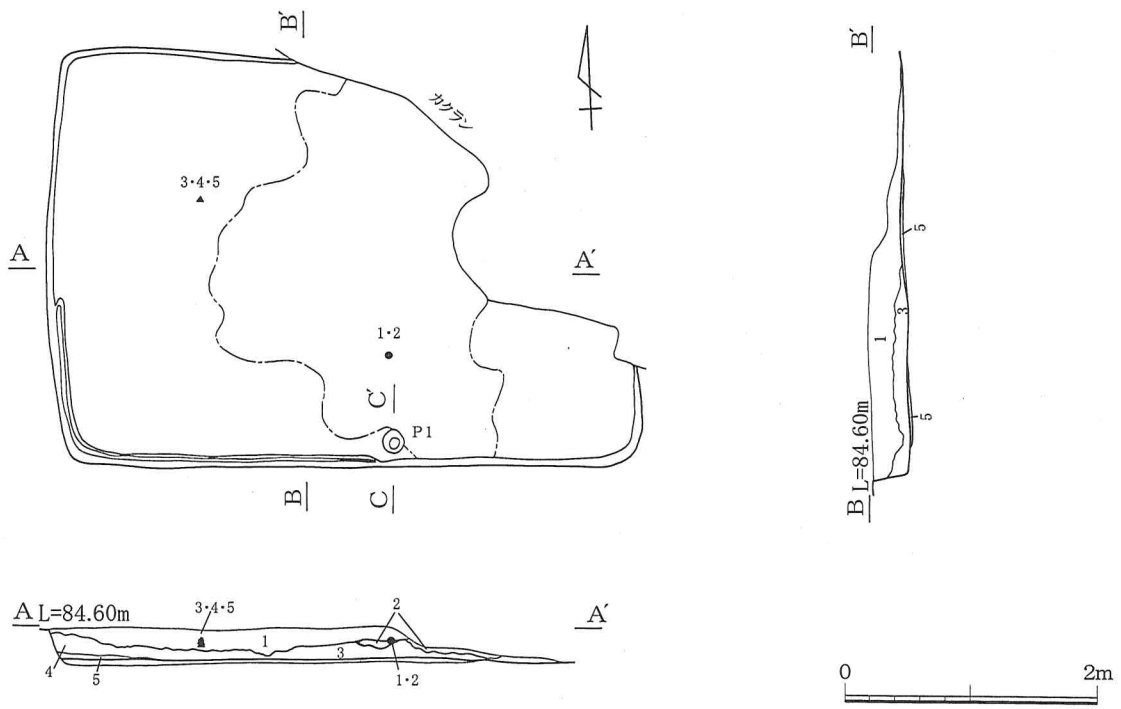
S I O 4 (第17図、図版13・14)

位置 X=85、Y=44 重複 なし。 平面形状・規模 4.63×3.32mの方形で、主軸はN-1°-E。 覆土
5層の自然堆積。 壁 残存高0.3m。 床 P 1の前面から住居跡中央部がやや硬化している。床下の掘り方の深
さは住居跡中心部で厚さ2~3cmと薄く、北西と南西コーナー部で5~6cm程度であった。 柱穴 1ヶ所。P
1は径0.16~0.17m、深さ0.12mで出入り口ピットと考えられる。 周溝 南壁の西側半分と東壁の南側にかけて、
壁沿いに幅約3~4cm、深さ1~5cmの規模で確認されている。 カマド 確認されていない。北東部が攪乱によっ
て壊されており、壊された範囲にあったものと考えられる。 出土遺物 1・2の土師器の坏と玉類が覆土から出
土している。玉類3点はまとめて出土している。 所見 出土遺物から7世紀前葉頃の住居跡と考えられる。

第6表 S I O 4号住居跡出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特 徴	色 調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径(14.4) 底径 器高(3.3)	体部~底部外面ヘラケズリ。内 面ヨコナデ、黒色処理。	外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色	石英粒、黒色光沢粒 普通	P 1 覆土 口縁部破片	SI04No.10
2	土師器 坏	口径(12.0) 底径 器高(4.2)	体部外面ナデ。底部外面ヘラケ ズリ。	外:淡橙褐色 内:淡橙褐色	スコリア 普通	覆土 15%	SI04No.10
3	石製品 管玉	全長2.7 口径1.0 孔径0.2~0.15 重量5.95	濃緑色。碧玉製。			覆土	SI04No.1
4	石製品 小玉	口径0.9 厚み0.9 孔径0.3 重量1.35	蛇紋岩製。			覆土	SI04No.2
5	石製品 小玉	口径0.9 厚み0.8 孔径0.2 重量1.05	蛇紋岩製。			覆土	SI04No.3

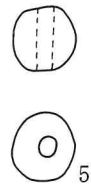
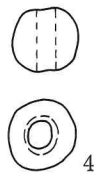
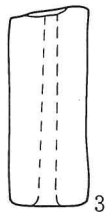
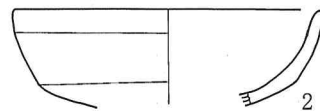
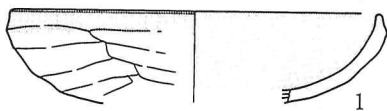


SI 04

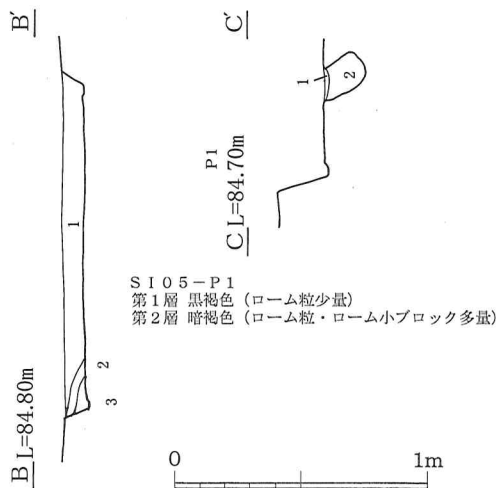
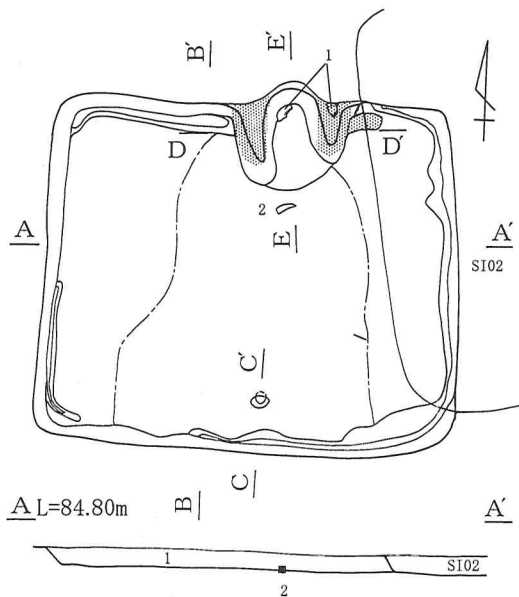
- 第1層 黒褐色 (ローム粒多量、ローム小・中ブロック少量、固くしまりあり)
- 第2層 灰黄褐色 (固くしまりあり)
- 第3層 黒褐色 (ローム粒中量、ローム中ブロック少量、固くしまりあり)
- 第4層 黒色 (ローム粒少量、ローム中ブロック少量、やややわらかい)
- 第5層 暗褐色 (ローム粒・ロームブロック中量、固くしまりあり、床下掘方埋土)

SI 04-P1

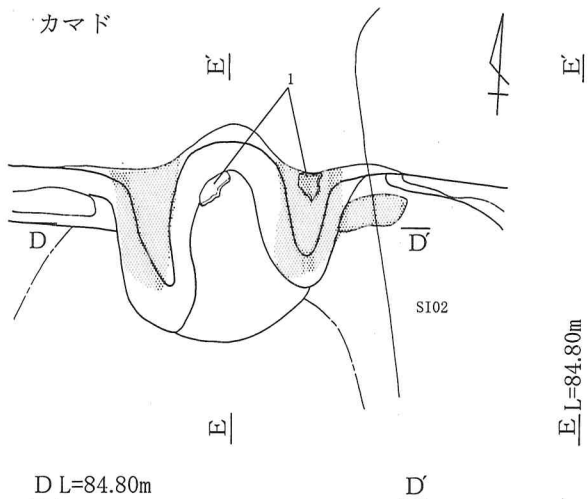
- 第1層 黒色 (やややわらかい、覆土)
- 第2層 黒褐色 (ローム中ブロックと黒色土中ブロックが混在、ややしまりあり、掘り方埋土)



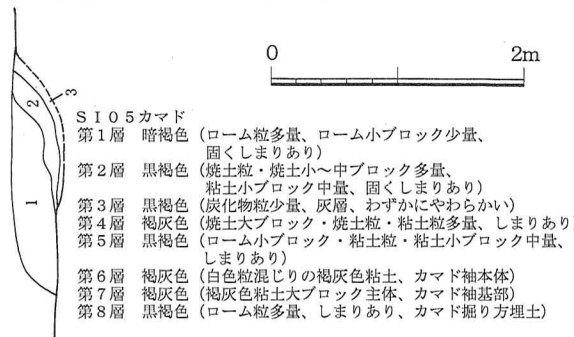
第17図 SI 04



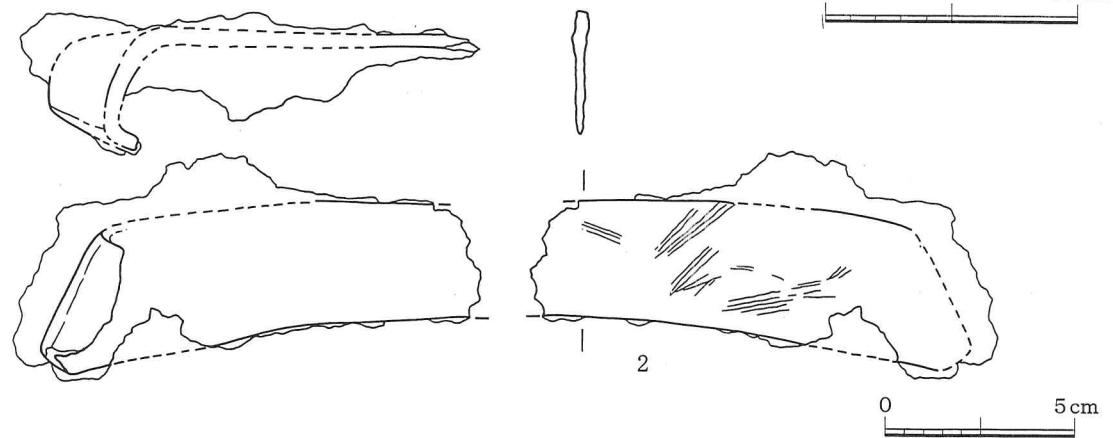
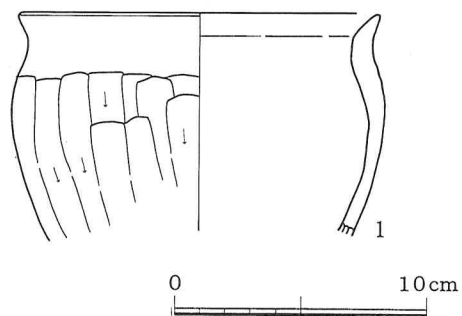
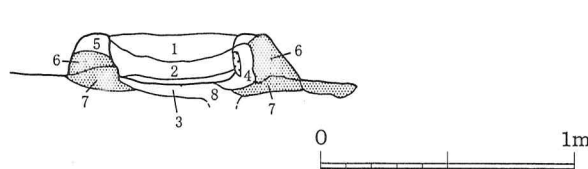
SI05-P1
 第1層 黒褐色 (ローム粒少量)
 第2層 暗褐色 (ローム粒・ローム小ブロック多量)



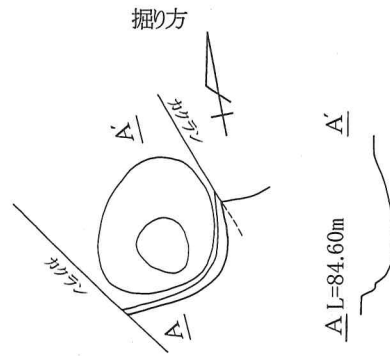
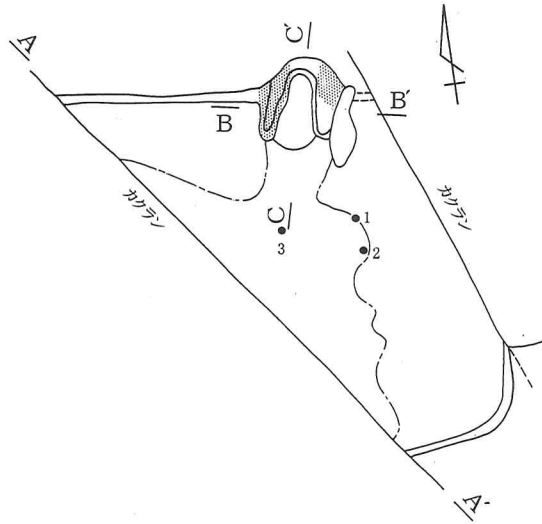
SI05
 第1層 黒褐色 (ローム粒・ローム小ブロック多量、人為的埋め戻しか)
 第2層 黒褐色 (ローム粒・ローム小ブロック少量)
 第3層 灰褐色 (ローム小ブロック多量)



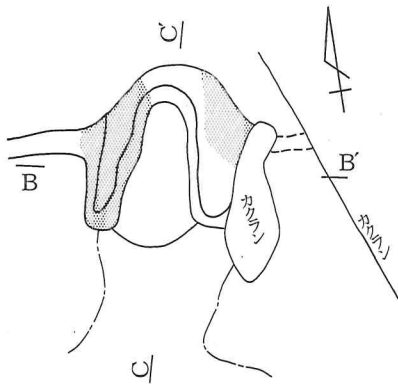
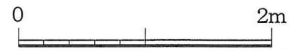
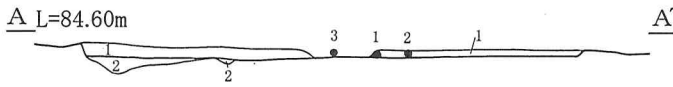
SI05カマド
 第1層 暗褐色 (ローム粒多量、ローム小ブロック少量、固くしまりあり)
 第2層 黒褐色 (焼土粒・焼土小〜中ブロック多量、粘土小ブロック中量、固くしまりあり)
 第3層 黒褐色 (炭化物粒少量、灰層、わずかにやわらかい)
 第4層 褐灰色 (焼土大ブロック・焼土粒・粘土粒多量、しまりあり)
 第5層 黒褐色 (ローム小ブロック・粘土粒・粘土小ブロック中量、しまりあり)
 第6層 褐灰色 (白色粒混じりの褐灰色粘土、カマド袖本体)
 第7層 褐灰色 (褐灰色粘土大ブロック主体、カマド袖基部)
 第8層 黒褐色 (ローム粒多量、しまりあり、カマド掘り方埋土)



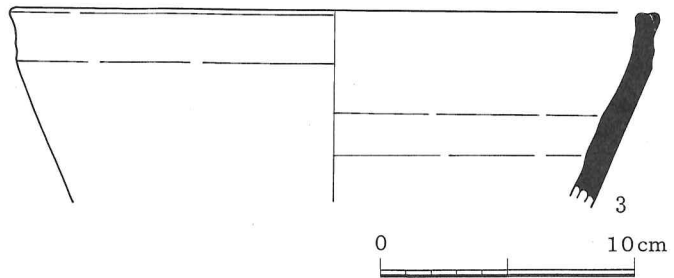
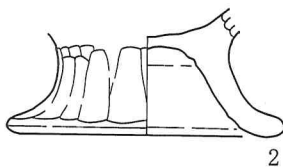
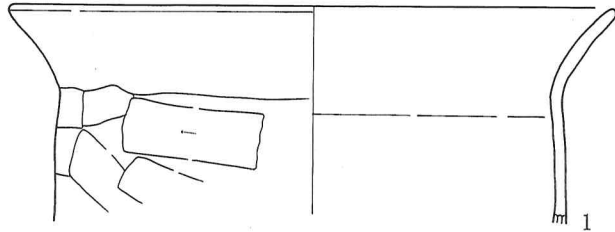
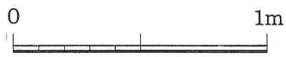
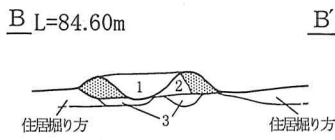
第18図 SI05



SI06
 第1層 暗褐色 (ローム粒少量、焼土粒・炭化物粒極少量、固くしまりあり)
 第2層 褐色 (ローム粒・ロームブロック多量、固くしまりあり)



SI06カマド
 第1層 黒褐色 (焼土小ブロック・粘土小ブロック少量、しまりあり)
 第2層 赤褐色 (焼土小ブロック中量、粘土小ブロック中量、炭化物粒極少量、しまりあり)
 第3層 暗褐色 (ローム粒多量、ローム小ブロック少量、炭化物粒少量、カマド掘り方土層)



第19図 SI06

S I O 5 (第18図、図版14・15)

位置 X=85・86、Y=44 重複 S I 2によって北東コーナー部と東壁を壊されている。平面形状・規模 3.32×2.76mの長方形で、主軸はN-2°-W。覆土 1層の自然堆積。壁 残存高0.16m 床 住居跡東壁と西壁寄りを除いて住居跡中央部は硬化している。柱穴 1ヶ所。P 1は径0.14~0.15、深さ0.17mで約64°の角度で南に傾いている。周溝 北壁のカマドの西側から西壁・南壁にかけて、壁沿いに深さ3~9cm、幅約12cm前後の規模で確認されている。カマド 最大幅1.00m、袖部奥行き0.68m、燃焼室幅0.30m、燃焼室奥行き0.86mである。袖部は基部に褐灰色粘土を、芯には白色粒混じりの褐灰色粘土を使用して構築している。出土遺物 1の土師器甕がカマド袖内や掘り方から、2の鉄鎌はカマド前面の床上から出土している。所見 出土遺物から6世紀後葉~7世紀前葉頃の住居跡と考えられる。

第7表 S I O 5号住居跡出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 小型甕	口径(14.2) 底径 器高[8.6]	胴部外面縦位ヘラケズリ。内面ナデ。	外:暗褐色 内:黒褐色	小礫、砂粒 やや不良	カマド袖部 25%	SI05No.10、 12、カマド袖
2	鉄製品 鎌	全長[11.6] 幅 3.6 厚 0.5 重量69.48	左手鎌。刃部先端欠損。裏面に木質付着。折り返し近くで折曲げられている。			床面	SI05No.5

S I O 6 (第19図、図版15)

位置 X=85、Y=44 重複 S I O 7の南部を壊している。平面形状・規模 東西方向3.40m以上、南北方向2.95mの長方形と見られる。主軸方向はN-8°-E。覆土 1層。壁 残存高0.08m。床 カマド前面から住居跡中央部にかけて硬化している。床下の掘り方は住居南東コーナー一部がやや深く掘り下げられている。柱穴 なし。周溝 なし。カマド 最大幅0.69m以上、袖部奥行き0.40m、燃焼室幅0.34m、燃焼室奥行き0.73m 出土遺物 土器は床面付近の覆土中から1の土師器の甕、2の脚台部、3の須恵器の鉢の口縁部がいずれも破片で出土している。3の須恵器は甌かもしれない。2の土師器の脚台部は7世紀代の混入遺物か。所見 出土遺物から8世紀後半の住居跡と考えられる。

第8表 S I O 6号住居跡出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 甕	口径(21.6) 底径 器高[8.0]	胴部外面ヘラケズリ。	外:明橙色 内:明橙色	石英微粒 良好	覆土 口縁の25%	SI06No.7
2	土師器 台付甕	口径 底径(10.9) 器高[3.9]	脚部外面ヘラケズリ。内面ナデ。	外:暗褐色 内:橙色	砂粒、角閃石 普通	覆土 脚部片	SI06No.6
3	須恵器 鉢	口径(25.4) 底径 器高[7.6]	体部内外面ロクロナデ。	外:灰色 内:灰色	石英 普通	覆土 口縁部片	SI06No.13

S I O 7 (第20図、図版16)

位置 X=85、Y=44 **重複** S I 03・06、S K 04と重複している。いずれの遺構よりも古い遺構である。 **平面形状・規模** 5.60×5.30mの方形で、北東部と南西部が遺構重複により壊されている。主軸方向はN-5°-E。

覆土 1層。床下覆土は全体に厚さ約3～5cm。 **壁** 残存高0.14m **床** 4本主柱穴の内側全体とカマドの位置が推測されるP1北側付近が硬化している。 **柱穴** 4ヶ所。P1は径0.28×0.37m、深さ0.32m。P2は径0.28×0.29m、深さ0.43m。P3は径0.16×0.21m、深さ0.38m。P4は径0.16×0.17m、深さ0.34m。P1・2は床面精査で検出されず、床面を断ち割って確認されたピットで、P3・4は床面精査で確認されたピットである。

周溝 南壁の一部に幅13cm、長さ55cmで残存している。周溝の残存している部分は住居の床面が壁側に向かって緩やかに傾斜して高くなっている。このことから、周溝は本来全周していたものが、一般的に壁際の床面は軟質なため、調査で削平されてしまっている可能性が考えられる。残存しているのはたまたま壁際まで床面が硬化していたため残存しているのかもしれない。 **カマド** 調査区内では確認されていない。 **出土遺物** 1の土師器の坏、3の不明鉄製品が覆土から、2の編み物石がP1覆土から出土している。 **所見** 出土遺物から7世紀後葉～8世紀前葉頃の住居と考えられる。

第9表 S I O 7号住居跡出土遺物

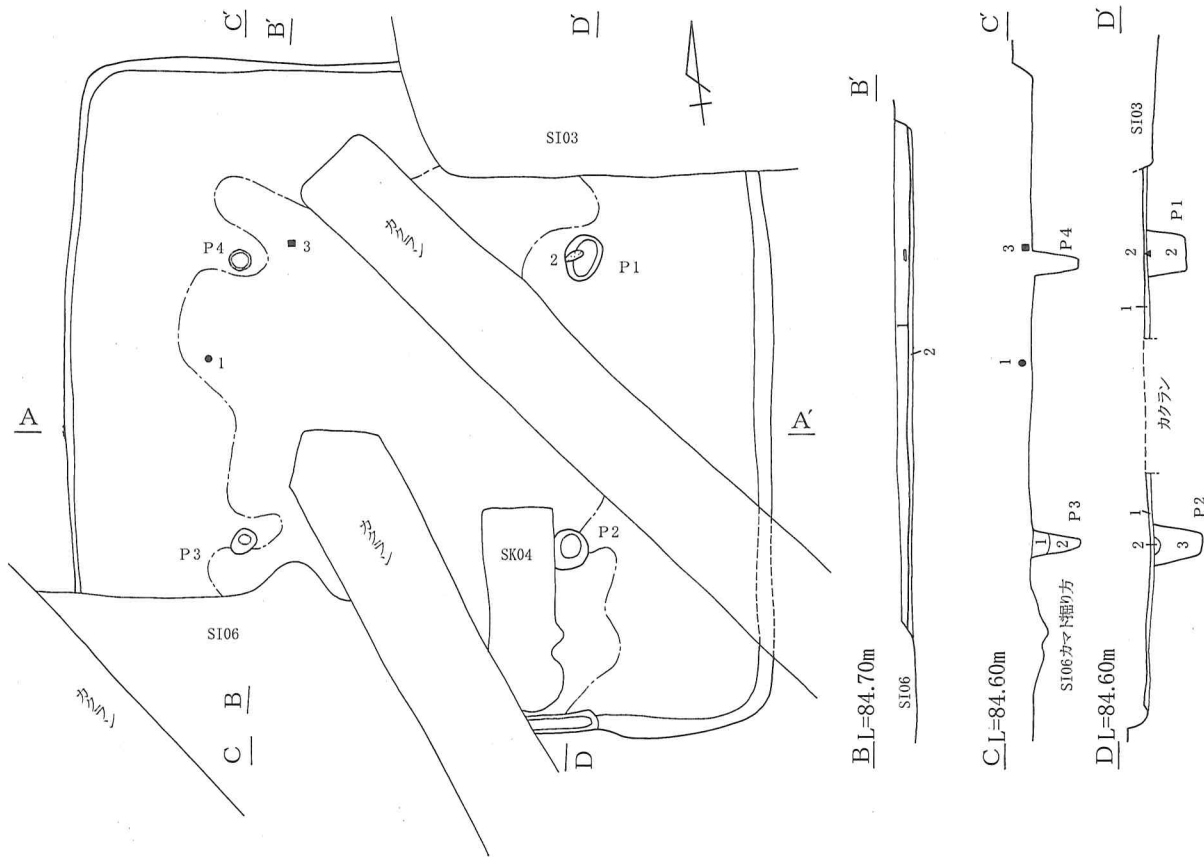
[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特 徴	色 調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径(10.6) 底径 器高(3.6)	口縁部内外面ヨコナデ、黒色処理。体～底部ヘラケズリ。丸底。	外:明橙色 内:明橙色	微砂粒、スコリア やや良好	覆土 25%	SI07No.2
2	石製品 編物石	全長13.2 幅 5.7 厚み4.3 重量515.9	棒状の自然石。安山岩。			P1覆土上層	SI07No.16
3	鉄製品	全長(3.5) 幅 0.5 厚 0.4 重量2.50	断面四角形の不明鉄製品。両端部欠損。			覆土	SI07No.3

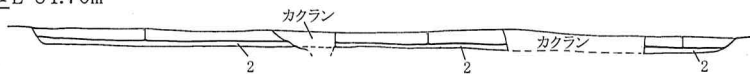
S I O 8 (第21図、図版16)

位置 X=87、Y=39 **重複** なし **平面形状・規模** 南北方向4.25m以上、東西方向8.02mで、主軸方向はN-6°-E。T4とT8にかかった部分の調査のため全体形状は不明であるが、方形になるものと思われる。 **覆土**

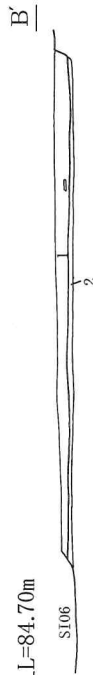
4層の自然堆積。最下層に崩壊したカマドに由来すると思われる砂質粘土と焼土が多量に堆積している。 **壁** 残存高0.20m **床** 壁際を除いて硬化している。 **柱穴** 調査範囲内では確認されていない。 **周溝** 西壁から北西コーナー部にかけて深さ幅約6cm、深さ3～4cmの規模で見られる。 **カマド** 確認されていない。 **出土遺物** 7の須恵器甕口縁部と9の鉄鎌は床面から、他の土師器坏・甕は覆土下層から出土している。 **所見** 出土遺物のうち覆土出土の1～4の土師器坏類や6の土師器甕は7世紀中頃の遺物か。



A L=84.70m



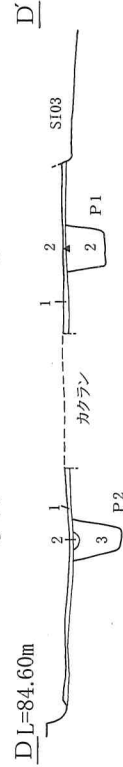
B L=84.70m



C L=84.60m



D L=84.60m



SI07

- 第1層 黒褐色 (ローム粒中量、粘性なし、固くしまりあり)
- 第2層 黒褐色 (ローム粒・ロームブロック少量、粘性なし、固くしまりあり)

SI07-P1

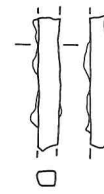
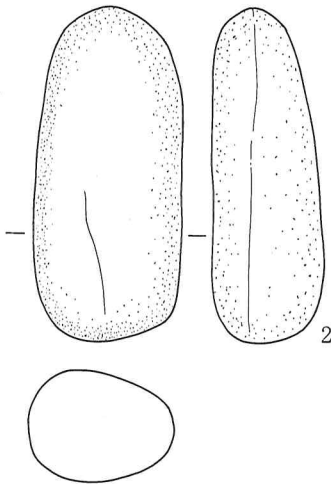
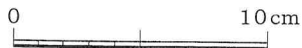
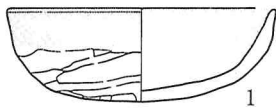
- 第1層 黒褐色 (ローム粒中量、固くしまりあり)
- 第2層 黒褐色 (ローム粒多量、ローム小・中ブロック多量、やややわらかい)

SI07-P2

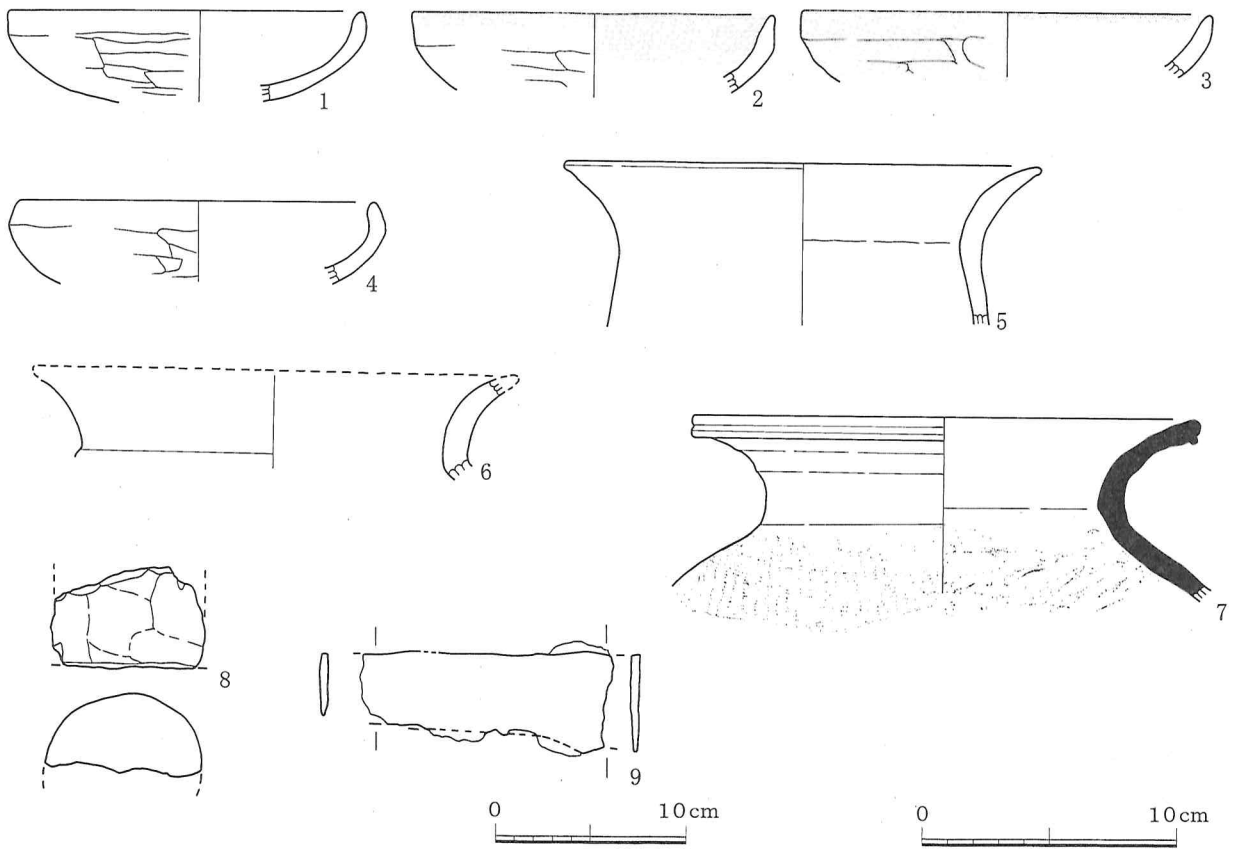
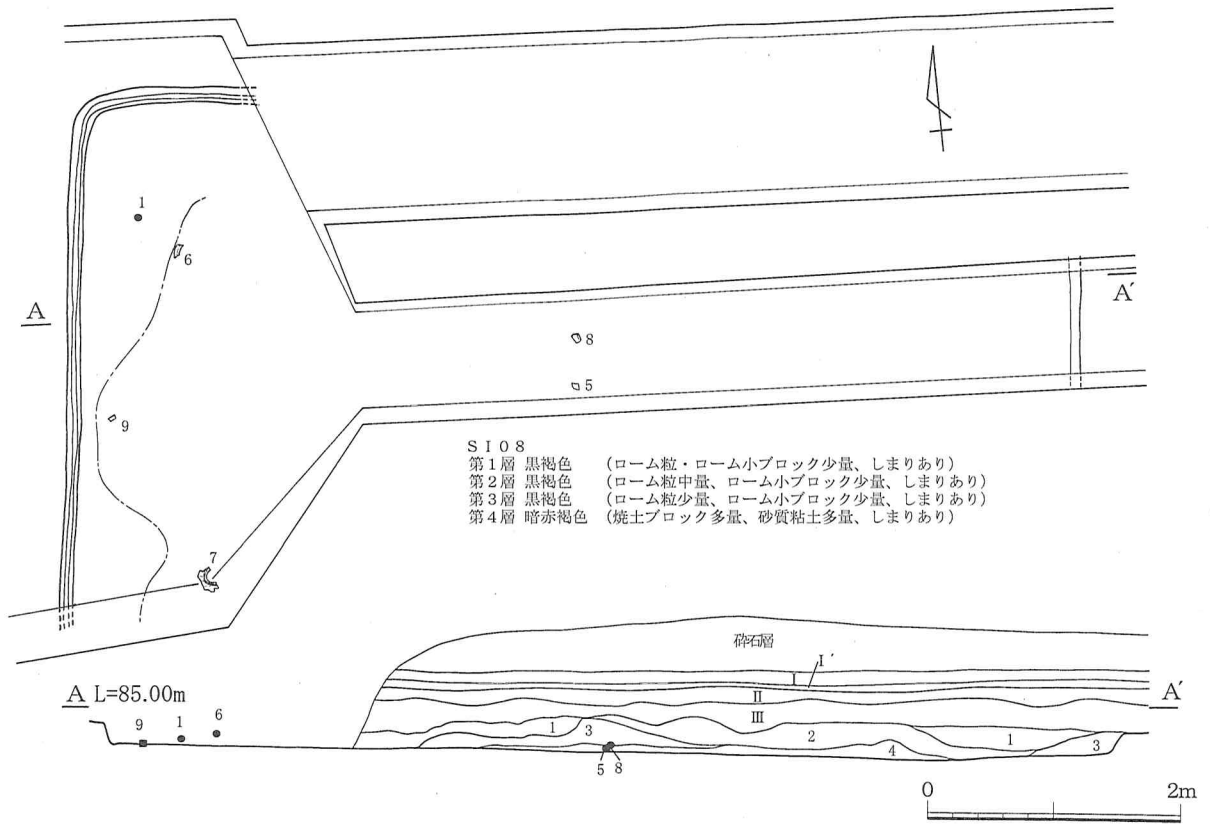
- 第1層 黒褐色 (ローム粒中量、固くしまりあり)
- 第2層 褐色 (ロームブロック)
- 第3層 黒褐色 (ローム粒多量、ローム小・中ブロック多量、やややわらかい)

SI07-P3

- 第1層 黒褐色 (ローム粒少量)
- 第2層 黒褐色 (ローム粒多量、ローム小・中ブロック多量、やややわらかい)



第20図 SI07



第21図 S I O 8

第10表 S I O 8号住居跡出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特 徴	色 調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 器高	体～底部外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色	スコリア以外夾雑物 含まない。 普通	覆土 口縁部片	SI08No.11
2	土師器 坏	口径 (14.1) 底径 器高	体～底部外面ヘラケズリ。内面 ナデ、黒色処理。	外:淡黄褐色 内:灰褐色	細砂粒、スコリア 普通	覆土 口縁部片	SI08
3	土師器 坏	口径 (16.0) 底径 器高	体部外面ヘラケズリ、黒色処 理。内面ナデ。	外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色	スコリア以外夾雑物 含まない。 普通	覆土 口縁部片	SI08
4	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 器高	体～底部外面ヘラケズリ。内面 ヨコナデ。	外:淡灰褐色 内:淡灰褐色	夾雑物含まない。 普通	床面 口縁部片	SI08
5	土師器 甕	口径 (18.8) 底径 器高	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内 面ヘラナデ。	外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色	石英、スコリア、角 閃石 やや不良	覆土 口縁部片	SI08No.22
6	土師器 甕	口径 (19.2) 底径 器高	口縁部内外面ヨコナデ。	外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色	石英、長石、砂粒 普通	覆土 口縁部片	SI08No.7
7	須恵器 甕	口径 (20.0) 底径 器高	胴部外面平行叩き後カキ目。内 面アテ具痕。	外:灰色 内:灰色	長石礫 普通	床面 口縁部の60%	SI08No.18
8	土製品 支脚	全長 [4.0] 経 6.1	外面ヘラナデ。			覆土	SI08No.24
9	鉄製品 鎌	全長 (6.6) 幅 2.7 厚 0.25 重量 23.25	左右端部が折損。裏面右側に木 質の付着が見られる。			覆土	SI08No.19

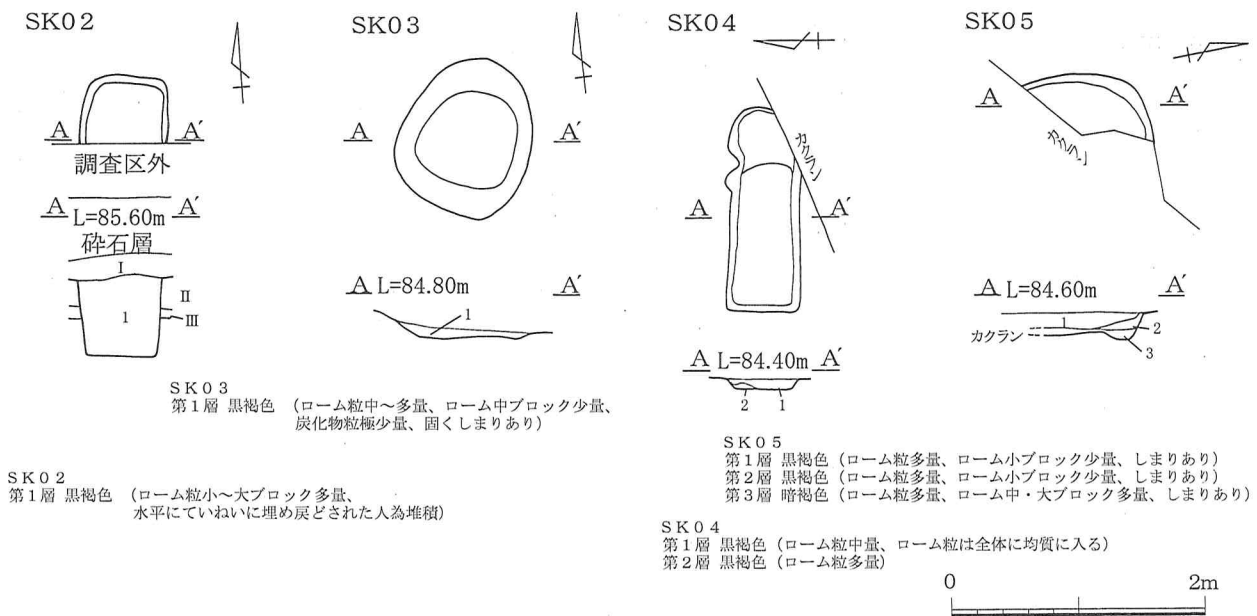
2. 土坑・ピット (第22・23図、第11・12表、図版17・18)

土坑は7基確認されている。SK02・04・06のように、幅1m以下で長方形のもの、SK05・07のように径約1m前後の円形状のものが確認されている。試掘トレンチから確認された、SK06～08は遺構確認のみ行った。出土遺物がなく時期がはっきりしないが、長方形のSK04は堅穴住居跡を壊しており、堅穴住居跡よりも新しい。ピットは、径30cm前後と小規模なものばかり全部で17基存在する。数基がまとまって存在しているが、他のピットと配列関係が見られない。出土遺物がなく時期は不明である。規模その他詳細は土坑一覧表・ピット一覧表を参考にしていただきたい。

第11表 土坑一覧表

[] 現存値

遺構名	位 置	平面形状	長径×短径×深さ (m)	備 考
SK02	3区南西部87-39G	長方形	[0.54]×0.76×0.60	
SK03	5区西部 85-45G	円形	1.12×1.03×0.08	
SK04	1区中央部 85-44G	長方形	1.64×0.58×0.08	SI07よりも新しい
SK05	1区中央部 85-44G	不明	[0.90]×[0.60]×0.20	
SK06	T2中央部 87-38G	長方形	[0.82]×0.62×-	確認のみ
SK07	T8中央部 87-34G	円形	0.72×0.68	確認のみ
SK08	T10北部 87-39G	-	[1.30]×[0.30]	確認のみ

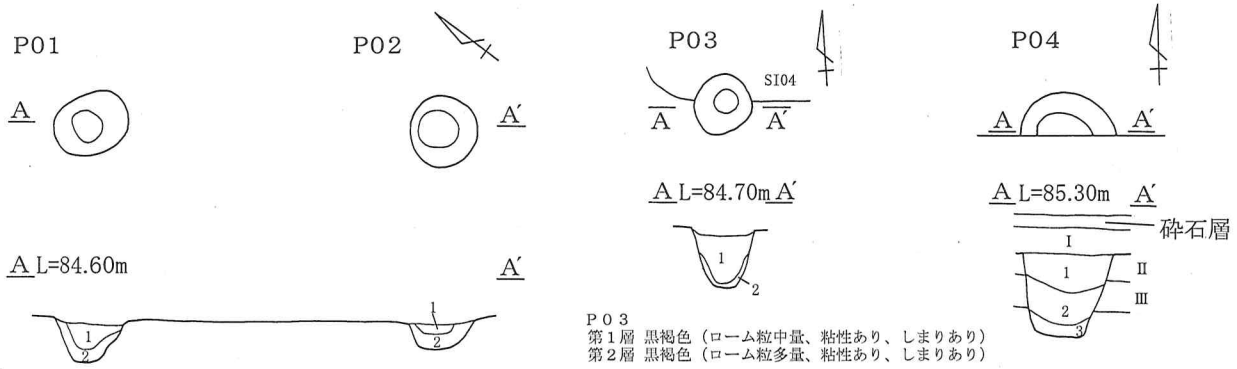


第22図 SK02~05

第12表 ピット一覧表

[]現存値

遺構名	位 置	平面形状	長径×短径×深さ (m)	備 考
P 1	1区北部 85-44G	楕円形	0.42×0.32×0.22	
P 2	1区北部 85-44G	円形	0.39×0.38×0.13	
P 3	1区北部 85-44G	円形	0.32×0.30×0.30	
P 4	5区中央部 85-46G	円形	[0.50]×[0.22]×0.43	
P 5	5区中央部 85-46G	円形	0.40×0.35×0.16	
P 6	5区中央部 85-46G	円形	[0.27]×0.20×0.20	
P 7	5区中央部 85-46G	円形	0.41×0.38×0.37	
P 8	5区中央部 85-47G	円形	0.27×0.25×0.07	
P 9	5区東部 85-48G	円形	0.28×0.28×0.17	
P 10	5区東部 85-48G	円形	0.28×0.28×0.13	
P 11	5区中央部 85-47G	楕円形	0.21×0.16×0.13	
P 12	5区中央部 85-47G	円形	0.28×0.28×0.17	
P 13	5区中央部 85-47G	円形	0.35×0.33×0.11	
P 14	5区東部 85-48G	円形	0.30×0.30×0.27	
P 15	5区東部 85-49G	円形	0.32×0.31×0.12	
P 16	5区中央部 85-47G	不整形	0.46×0.24×0.27	
P 17	T 6 北部 85-43G	楕円形	0.28×0.17×0.21	

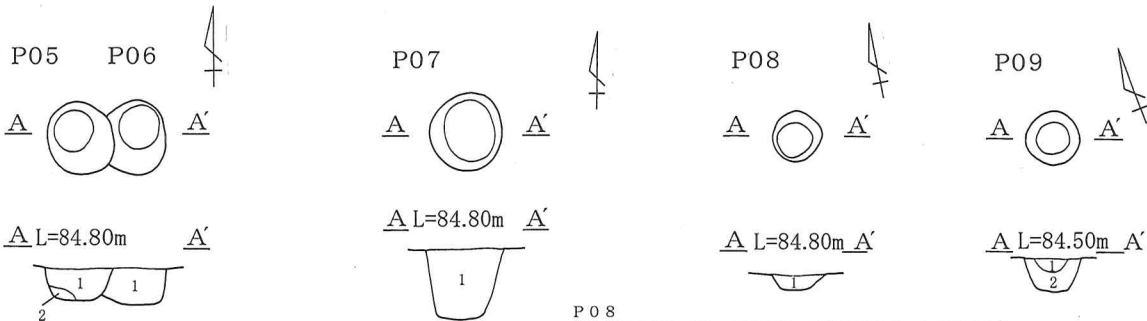


P01
第1層 黒褐色 (焼土粒・ローム粒少量、粘性あり、ややしまりあり)
第2層 暗褐色 (ローム粒多量、やや粘性あり、ややしまりあり)

P02
第1層 黒褐色 (ローム粒中量、粘性なし、ややしまりあり)
第2層 暗褐色 (ローム粒・ロームブロック多量、やや粘性あり、しまりあり)

P03
第1層 黒褐色 (ローム粒中量、粘性あり、しまりあり)
第2層 黒褐色 (ローム粒多量、粘性あり、しまりあり)

P04
第1層 黒褐色 (炭化物粒極少量、ローム粒極少量、しまりあり)
第2層 黒褐色 (ローム粒極少量、しまりあり)
第3層 黒褐色 (ローム粒子少〜中量、ややわらかい)



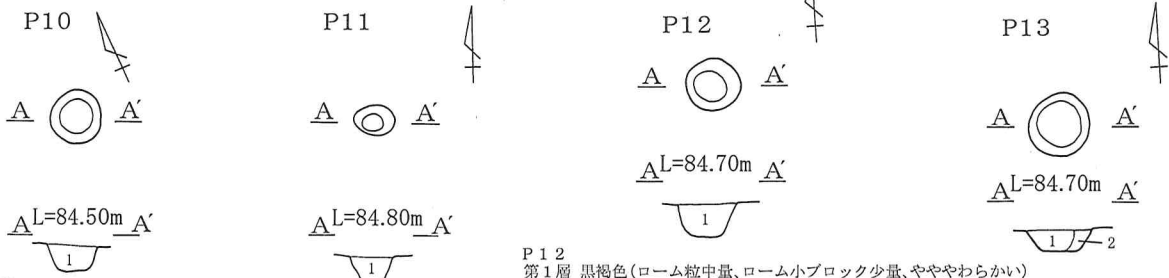
P05
第1層 黒褐色 (ローム粒少量、粘性あり、ややしまりあり)
第2層 暗褐色 (ローム粒多量、粘性あり、ややしまりあり)

P08
第1層 黒褐色 (ローム粒中量、やや粘性あり、しまりなし)

P09
第1層 黒褐色 (ローム粒少量、炭化物粒極少量、しまりあり)
第2層 黒褐色 (ローム粒中量、ローム中ブロック中量、しまりあり)

P06
第1層 黒褐色 (ローム粒少量、粘性あり、ややしまりあり)

P07
第1層 黒褐色 (ローム粒少量、粘性あり、ややしまりあり)

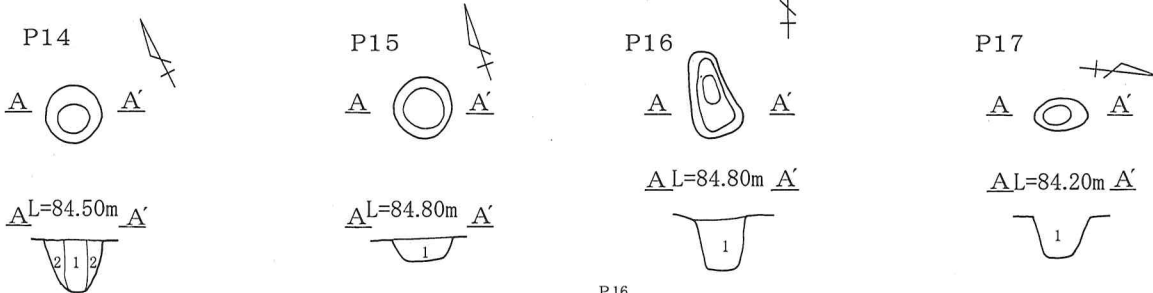


P10
第1層 黒褐色 (ローム粒少量、ローム小ブロック少量、ややわらかい)

P11
第1層 黒褐色 (ローム粒少量、ローム小ブロック少量、ややわらかい)

P12
第1層 黒褐色 (ローム粒中量、ローム小ブロック少量、ややわらかい)

P13
第1層 黒褐色 (ローム粒中量、ややわらかい)
第2層 黒褐色 (ローム小・中ブロック多量、しまりあり)



P14
第1層 黒褐色 (ローム粒中量、ややわらかい)
第2層 灰黄褐色 (ローム小ブロック多量、ややしまりあり)

P15
第1層 黒色 (ローム粒中量、ローム小・中ブロック多量、しまりあり)

P16
第1層 黒褐色 (ローム粒中量、やや粘性あり、しまりなし)



第23図 P01~P17

3. 溝 (第24図、第13表、図版19)

全部で11条の溝が確認されている。SD01～07は掘り込み調査を行い、SD08～11は遺構確認のみ行った。Ⅲ層から掘り込まれたSD05やSD04に対してSD01はⅡ層中から掘り込まれており、より新しい遺構である。SD05からは遺物が出土しており、SD05は古墳時代後期の溝と考えられる。規模その他詳細については溝一覧表を参考にさせていただきたい。

第13表 溝一覧表

[] 現存値

遺構名	位置	主軸方向	幅×長さ×深さ (m)	備考
SD01	T 2 中央部 87-40G	N-1° -E	1.75×[1.12]×0.60	
SD02	T 2 中央部 87-40G	N-24° -E	0.90~1.10×[1.20]×0.40	
SD03	T 2 中央部 87-38G	N-3° -E	3.55×[1.08]×0.25	
SD04	T 2 西部 87-35G	N-8° -E	2.30×[1.15]×0.30	
SD05	1・2・5区 85-43~85-44G	N-44° -W	0.60~0.95×[24.9]×0.12	
SD06	T 5・7 中央部 87-40G	N-3° -E	1.58×2.65×0.40	
SD07	T 7 中央部 87-40G	N-26° -E	2.35×2.90×0.58	
SD08	T 8 東部 87-38G	N-10° -E	0.79×[0.80]×-	確認のみ
SD09	T 8 中央部 87-35G	N-7° -E	1.19×[0.78]×-	確認のみ
SD10	T 8 中央部 87-34G	N-11° -E	0.67×[0.80]×-	確認のみ
SD11	T 8 中央部 87-34G	N-18° -E	0.96×[1.10]×-	確認のみ

第14表 SD07号住居跡出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径(11.0) 底径(5.6) 器高(5.0)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半部ひび痕、下半部指頭痕。	外:橙色 内:橙色	白色微砂粒 良好	覆土 20%	SI07

4. 不明遺構その他

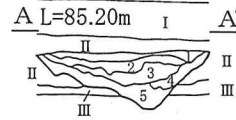
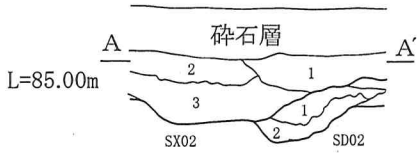
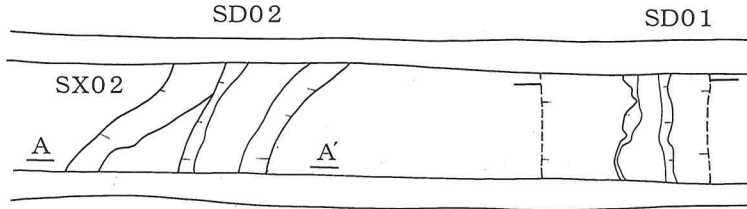
竪穴住居跡の可能性のあるものの明瞭に性格特定できなかったものを性格不明遺構(SX)として報告する。その他に自然河道が調査区内から確認されておりあわせて報告する。

SX01 (第26図、図版20)

幅4.32m、長さ3.70m以上、調査区内の東端部から西に向かって緩やかに傾斜して延びる溝か土坑の一部のような形状をしている。北側の縁付近にピット2カ所と礫の集積がある。南側の底面には円形・長楕円形の浅い掘り込みが交互に並んでいる。土層は3層の自然堆積で、下層に砂質土を含んでいる。この地点の西側調査区外には自然河道が北西から南東に向かって流れており、自然河道との関係も推測できるが調査区外に延びるため溝とも土坑とも特定できないため性格不明遺構とした。

SX02 (第24図、図版19)

長辺1.80m以上、短辺1.30m、深さ0.25m。底面はほぼ平坦で、北西壁と南東壁は傾斜して立ち上がる。SD02と重複しており、SD02よりも新しいが、東側の壁を捉えられなかったため形状がわからなかった。溝の可能性も考えられる。



SX02

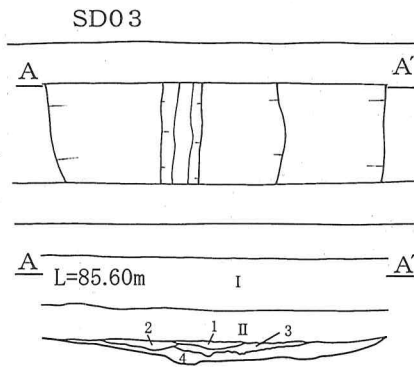
- 第1層 黒色 (ローム粒・ローム小ブロック多量、やややわらかい)
- 第2層 黒褐色 (ローム粒少量、やわらかい)
- 第3層 暗褐色 (ローム粒少量、暗褐色土中ブロック中量、やわらかい)

SD02

- 第1層 黒褐色 (ローム粒中～多量、しまりあり)
- 第2層 黒褐色 (ローム粒中量、やややわらかい)

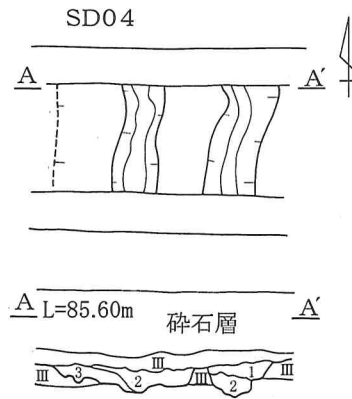
SD01

- 第1層 黒褐色 (ローム粒・ローム小ブロック少量、しまりあり)
- 第2層 黒色 (ローム小ブロック少量、炭化物少～中量、やわらかい)
- 第3層 暗褐色 (ローム中・大ブロック多量、しまりあり)
- 第4層 黒褐色 (ローム少量、ややしまりあり)
- 第5層 黒褐色 (ローム粒中量、自然礫、やわらかい)



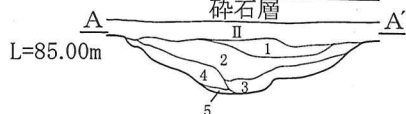
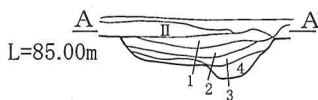
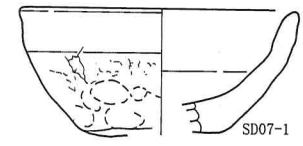
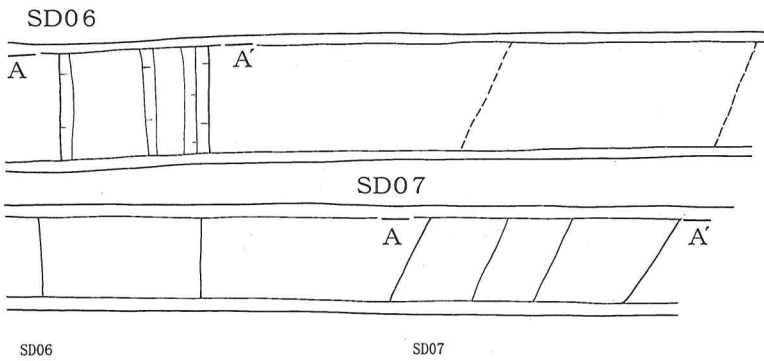
SD03

- I 層 黒褐色 (やや粘性あり、旧水田土壌か)
- II 層 黒褐色 (ローム粒少量、酸化粒少量、しまりあり、耕作層か)
- 第1層 黒褐色 (黒褐色土主体)
- 第2層 にぶい黄褐色 (ローム粒極少量、ローム小ブロック多量、ややしまりあり)
- 第3層 暗褐色 (ローム粒多量、ローム小ブロック多量、やややわらかい)
- 第4層 暗褐色 (ローム粒少量、ローム小ブロック多量、ややしまりあり)



SD04

- II 層 黒褐色
- 第1層 黒褐色 (ローム粒少量、ローム小ブロック中量、しまりあり)
- 第2層 黒褐色 (ローム粒少量、ローム小ブロック少量、しまりあり)
- 第3層 暗褐色 (ローム粒中量、ローム小ブロック中量、しまりあり)

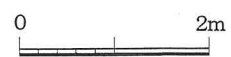


SD06

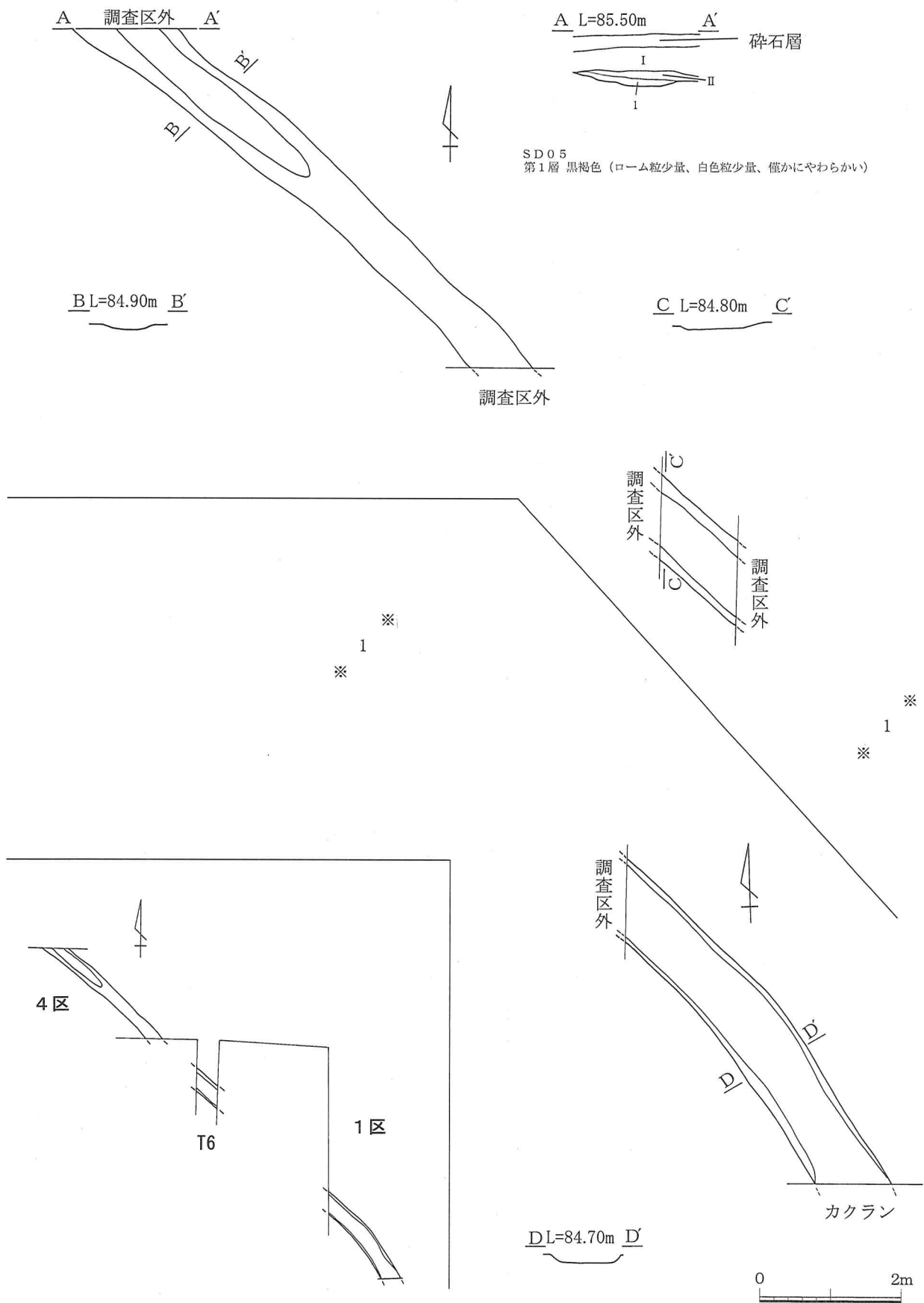
- 第1層 黒褐色 (ローム粒少量、黒褐色中ブロック少量、やわらかい)
- 第2層 黒褐色 (ローム粒少量、砂質土、やわらかい)
- 第3層 黒褐色 (ローム粒少量、炭化物少量、やわらかい)
- 第4層 黒褐色 (ローム粒多量、ローム小ブロック少量、ややしまりあり)

SD07

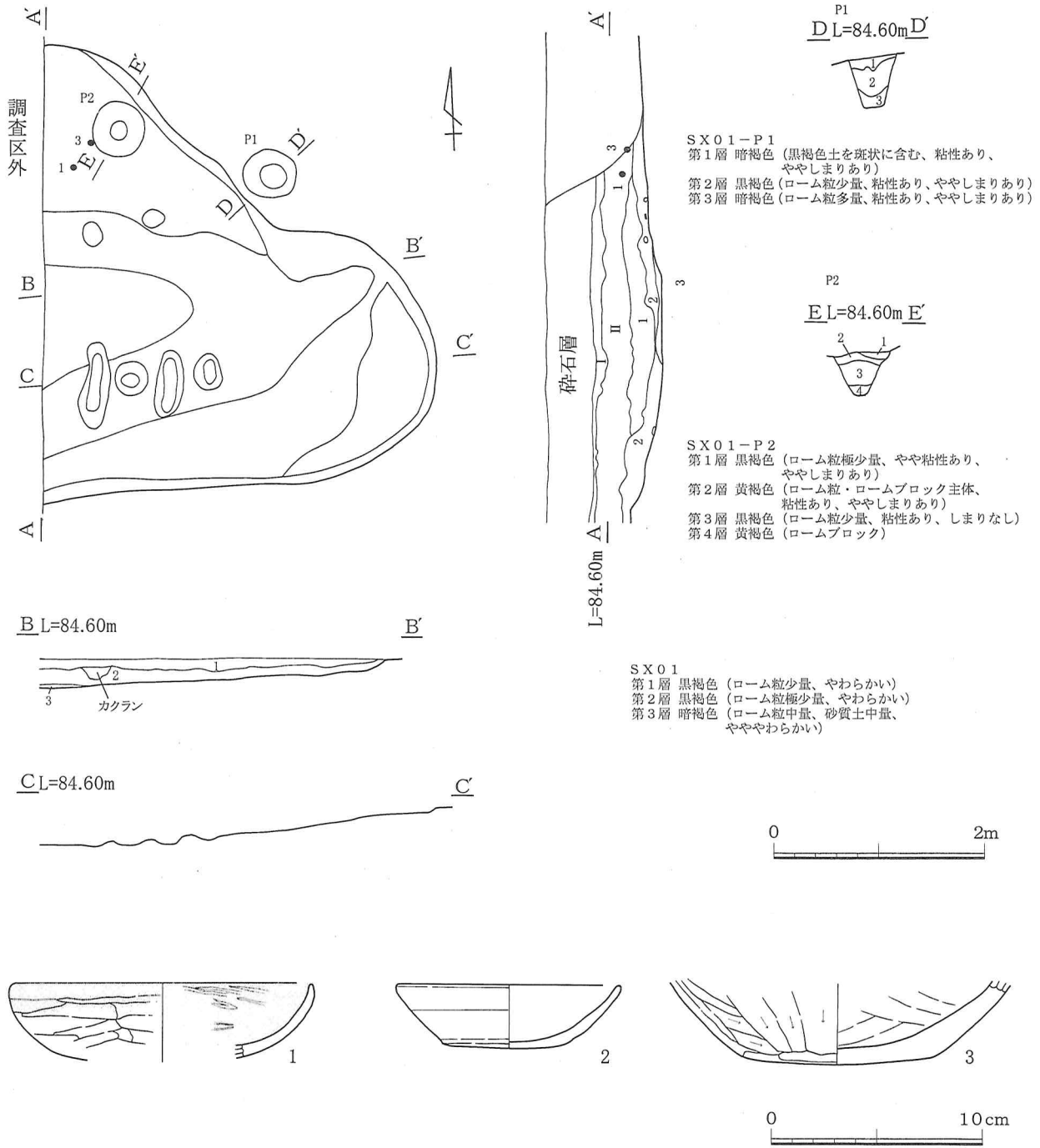
- 第1層 黒褐色 (ローム粒少量)
- 第2層 黒褐色 (ローム粒少～中量、暗褐色土小ブロック中量、しまりあり)
- 第3層 黒褐色 (ローム粒多量、暗褐色土小ブロック多量、しまりあり)
- 第4層 黒褐色 (ローム少量、ローム小ブロック少量、ややしまりあり)
- 第5層 黒褐色 (ローム少量、ローム小ブロック少量、しまりあり)



第24図 SD01～4・6・7・SX02



第25図 SD05



第26図 SX01

第15表 SX01出土遺物

[] 残存値、() 推定値

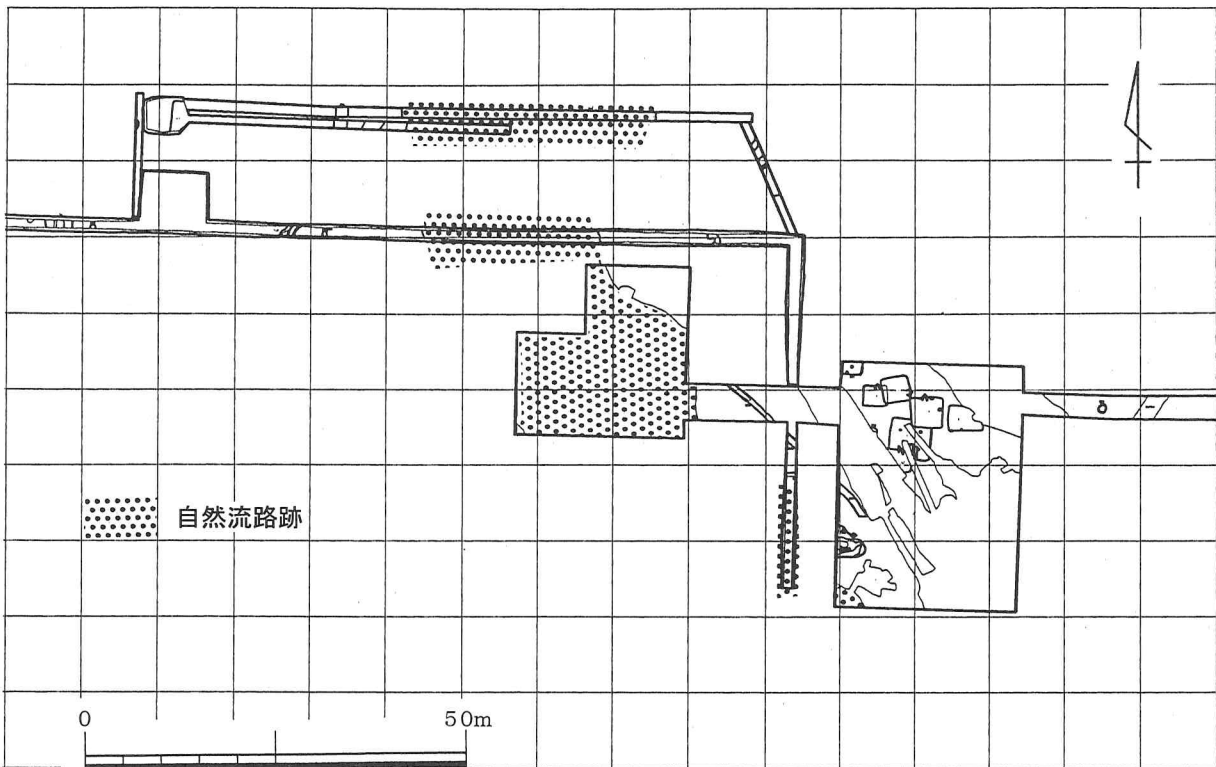
No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径(14.0) 底径 器高(3.8)	体~底部外面ヘラケズリ。内面ミガキ。内面~口縁部外面黒色処理。	外:淡黄灰色 内:黒褐色	スコリア やや良好	覆土 25%	SX-01No.12
2	土師器 坏	口径(13.8) 底径 器高 3.1	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。	外:淡黄灰色 内:淡黄灰色	微砂粒少量、白色粒 極少量 普通	P1覆土 35%	SX-01P1
3	土師器 甕	口径 底径 器高 9.0	胴部外面下端ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	外:淡茶褐色 内:淡茶褐色	チャート礫、砂粒 普通	覆土 底部片	SX-01No.10

SX03 (第11図)

T8の中央部で確認された、長辺2.80m以上、短辺0.80m以上の遺構で両辺が直角方向に延びており、やや大きめの遺構であることから竪穴住居跡の可能性も考えられる。遺構確認のみ行った。

自然河道 (第27図、図版1)

自然河道と見られる大規模な落ち込みが、1区の南西コーナー部、T6の南部、2区のほぼ全体、T2・5・7を横断して確認された。確認された範囲での河道の幅はT2トレンチで最大幅33m、T2トレンチで最小幅24m、2区で幅25mである。2区の北東部では自然河道の河岸のラインが蛇行するようにカーブを描いて確認されている。

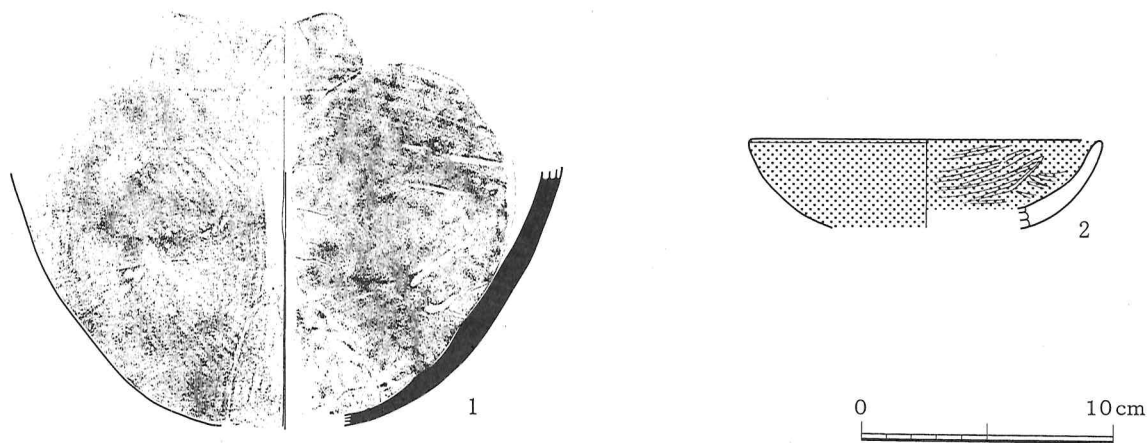


第27図 調査区内自然流路跡位置図

5. 遺構外遺物 (第28図、図版23)

遺構外から出土した遺物には、T6トレンチ遺構確認面から出土した須恵器甕と表採の土師器坏がある。

1の須恵器甕は外面平行叩き、内面押さえとロクロナデ調整、底部から胴部にかけての破片で、径がやや小さめのため壺や横瓶の可能性も僅かにある。2の土師器の坏は内外面とも赤彩を施している。



第28図 遺構外出土遺物

第16表 遺構外出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	須恵器 甕	口径 底径 器高	胴部外面平行叩き。内面ロクロナデ。	外: 淡灰色 内: 淡灰色	スコリア やや不良	漸移層 底部片	T6
2	土師器 坏	口径(13.9) 底径 器高	体部外面ヘラケズリ後ナデ。内面ミガキ。内外面赤彩。	外: 赤褐色 内: 赤褐色	微砂粒、黒色微粒 良好	表採 15%	表採

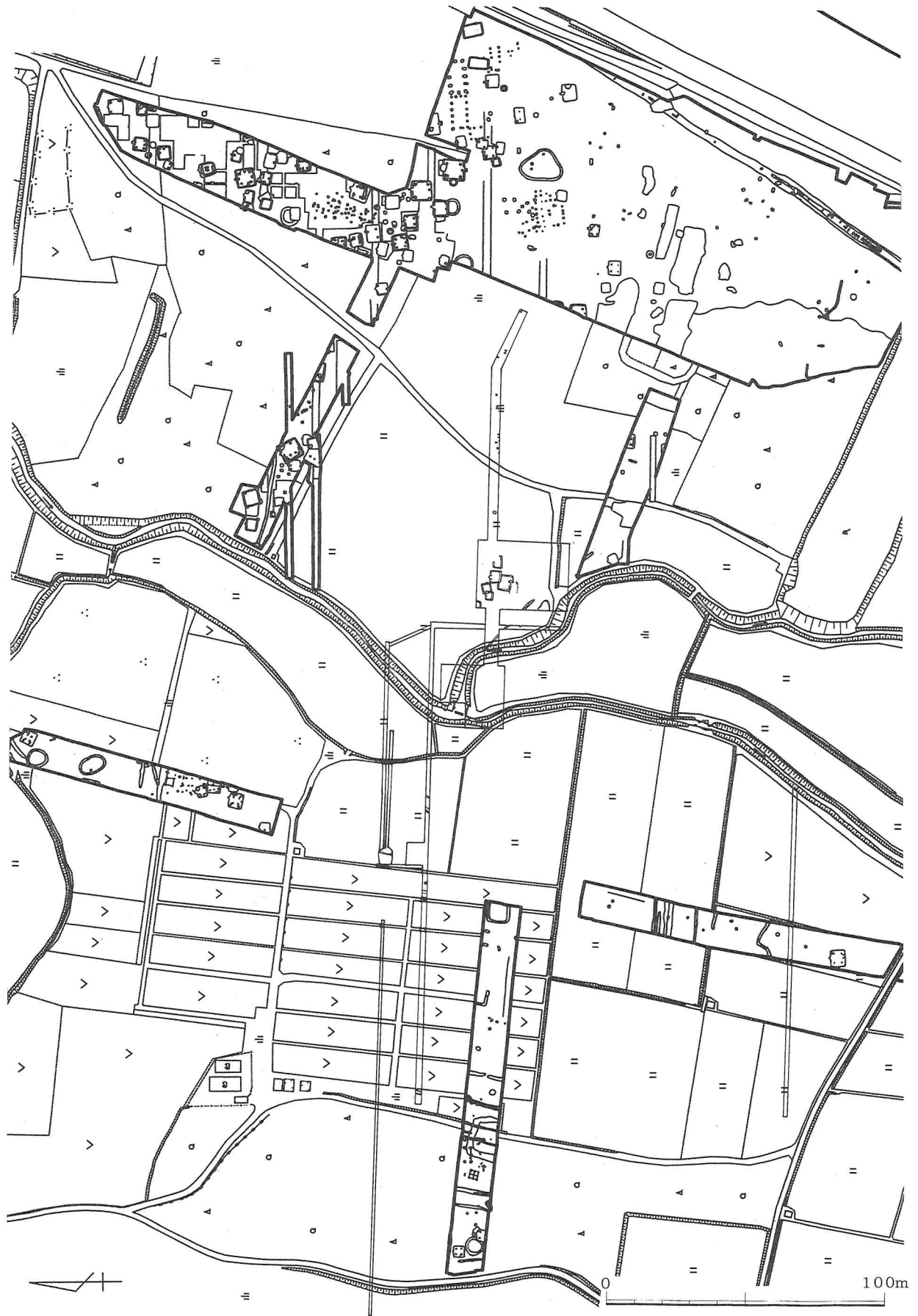
III むすび

中島笹塚遺跡から確認された、竪穴住居跡について出土遺物からみた時期と出土遺物の特徴についてまとめてむすびとしたい。各遺構から出土している遺物は、小片で覆土から出土しているものが多く、同一の図版に掲載したものの遺構に伴わないものも含んでいる。

S I 01出土遺物は普通サイズで肩部の丸く張った土師器甕とやや小振りな甕に分かれるが、出土状態から見てほぼ同時期の廃棄遺物と見られる。遺物の時期は6世紀後葉～7世紀前葉頃のものであろうか、住居跡は四本柱を持つ竪穴住居跡のようである。S I 04は土師器坏片と玉類が覆土から出土しており、土師器の坏から7世紀前葉頃の時期と思われる。S I 05はカマドの袖と奥壁の掘方内から出土した土師器の甕から6世紀後葉～7世紀前葉頃と考える。S I 07の土師器坏は7世紀後葉頃のものか。S I 06はS I 07を壊しておりS I 07よりも新しい。出土遺物は8世紀代の土師器甕や須恵器の鉢で、2の台付甕の脚部はS I 01出土のものに基部の形状が似ており7世紀代のものの混入かと思われる。S I 08の土師器甕も8世紀代と思われるものがあり、7世紀中頃の土師器坏は小片であり、住居の時期は8世紀代かと思われる。

鉄製品では、鉄鎌が2点出土しているが、S I 05出土の鎌は左手鎌で、基部寄りの位置で元々の折り返しと別に折り曲げられていると見られる。

石製品では、S I 04出土の碧玉製管玉と蛇紋岩製小玉が注目される。編み物石は、S I 01、S I 03、S I 07から出土している。覆土中のため遺構に伴わないかもしれないが、S I 03からは台石が出土している。



第 29 図 周辺調査区と本調査区の位置関係図



1区 全景（南から）



2区 全景（南から）

図版2



3区 全景 (南から)



4区 全景 (西から)



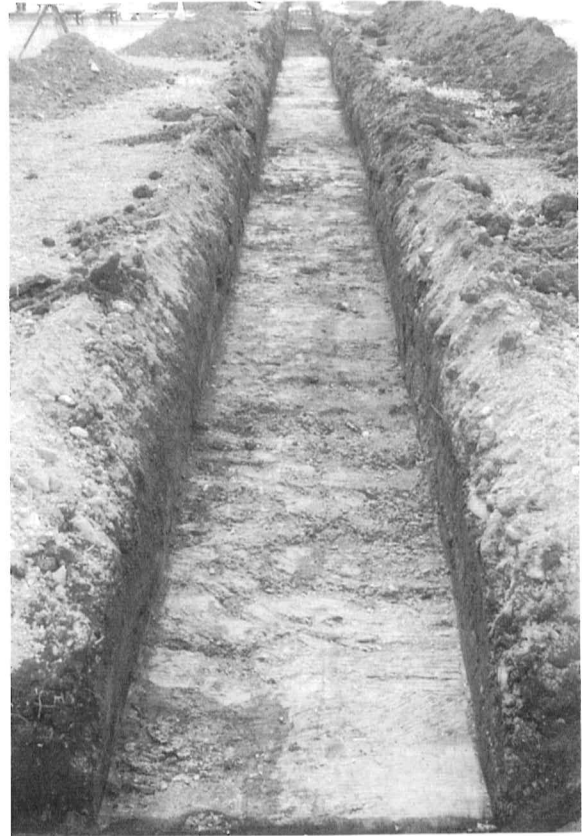
5区 西部全景 (西から)



5区 東部全景 (東から)



T 1 遺構確認状況 (南から)



T 2 遺構確認状況 (東から)

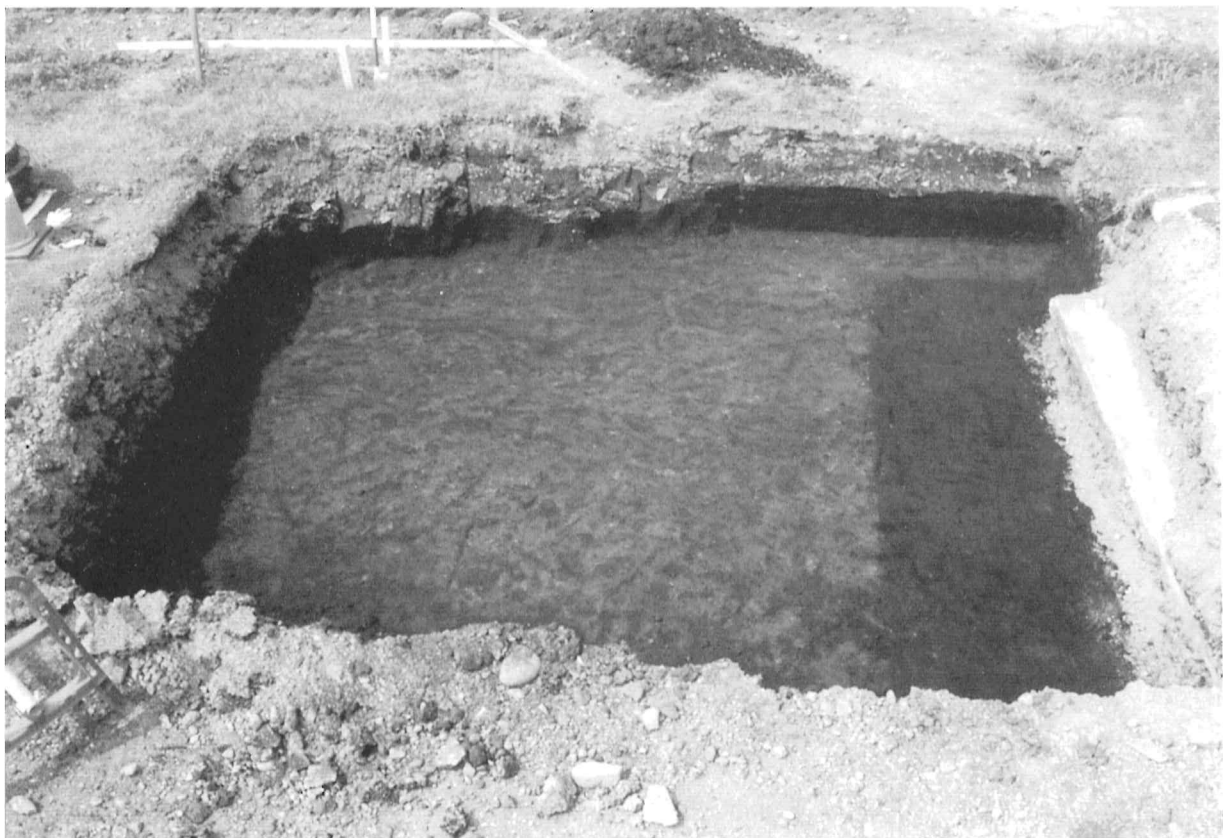
図版4



T 3 遺構確認状況（西から）



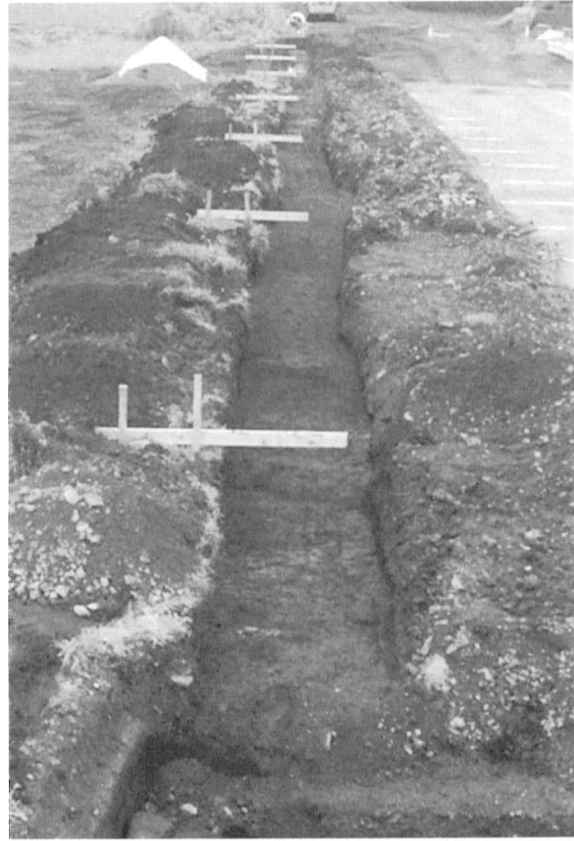
T 3 遺構確認状況（東から）



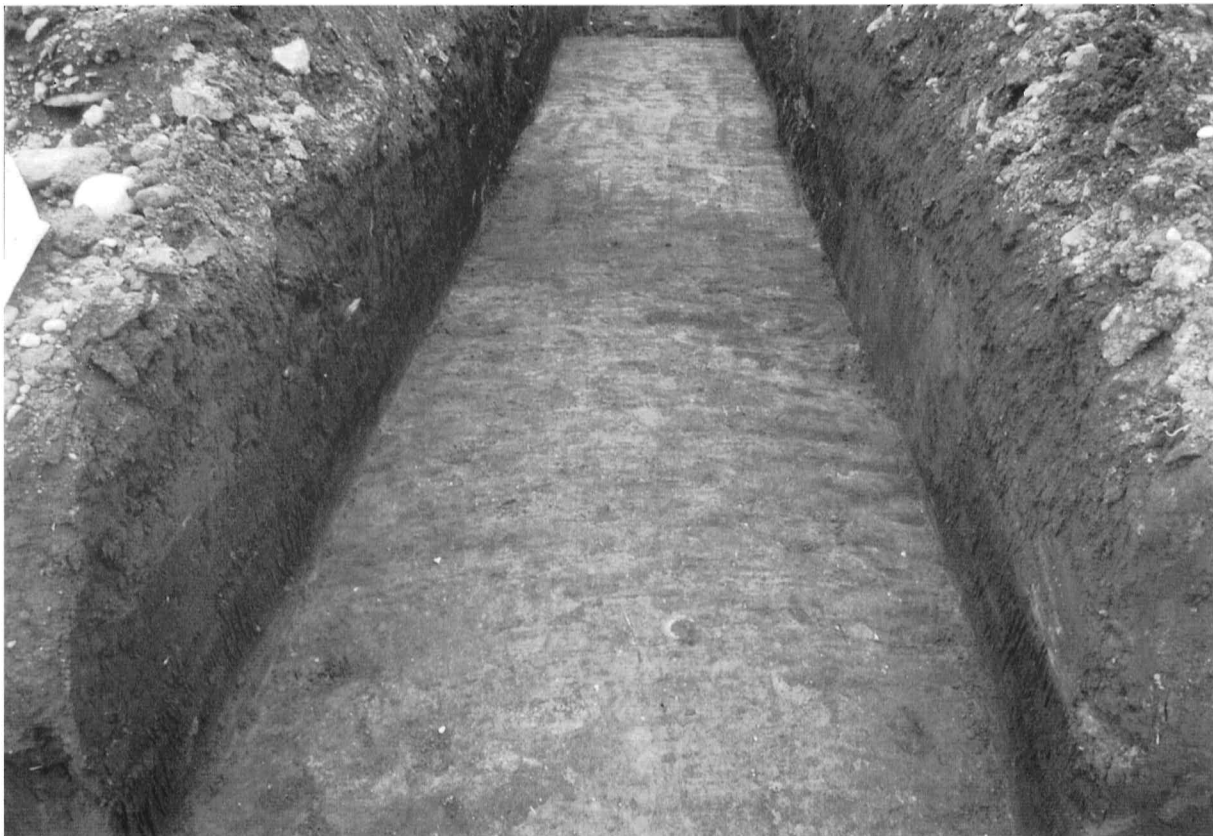
T 4 遺構確認状況（南から）



T 5 遺構確認状況（東から）

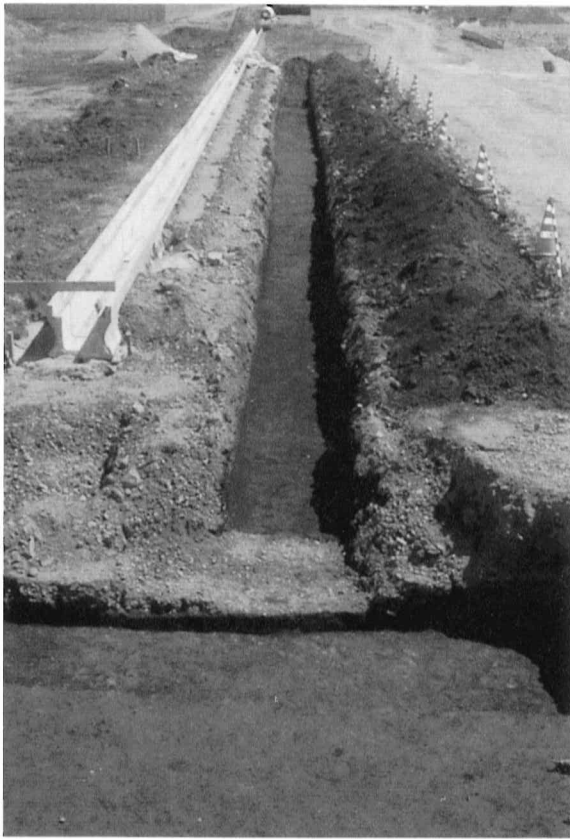


T 5 遺構確認状況（西から）



T 6 遺構確認状況（北から）

図版6



T 7 遺構確認状況 (西から)



T 8 遺構確認状況 (東から)



T 9 遺構確認状況 (北から)



T 10 遺構確認状況 (北から)



1区 遺構確認状況（北から）



1区 発掘作業風景

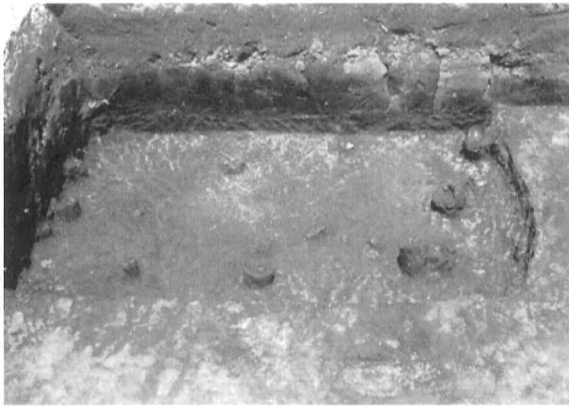
図版8



SI01 完掘状況（南から）



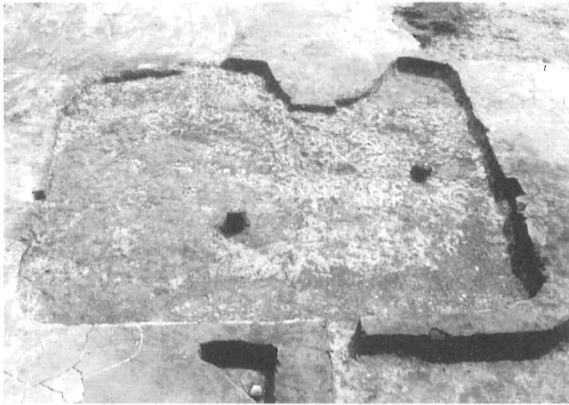
SI01 遺物出土状況（南から）



S I 01 遺物出土状況（南から）



S I 01 掘り方完掘状況（南から）



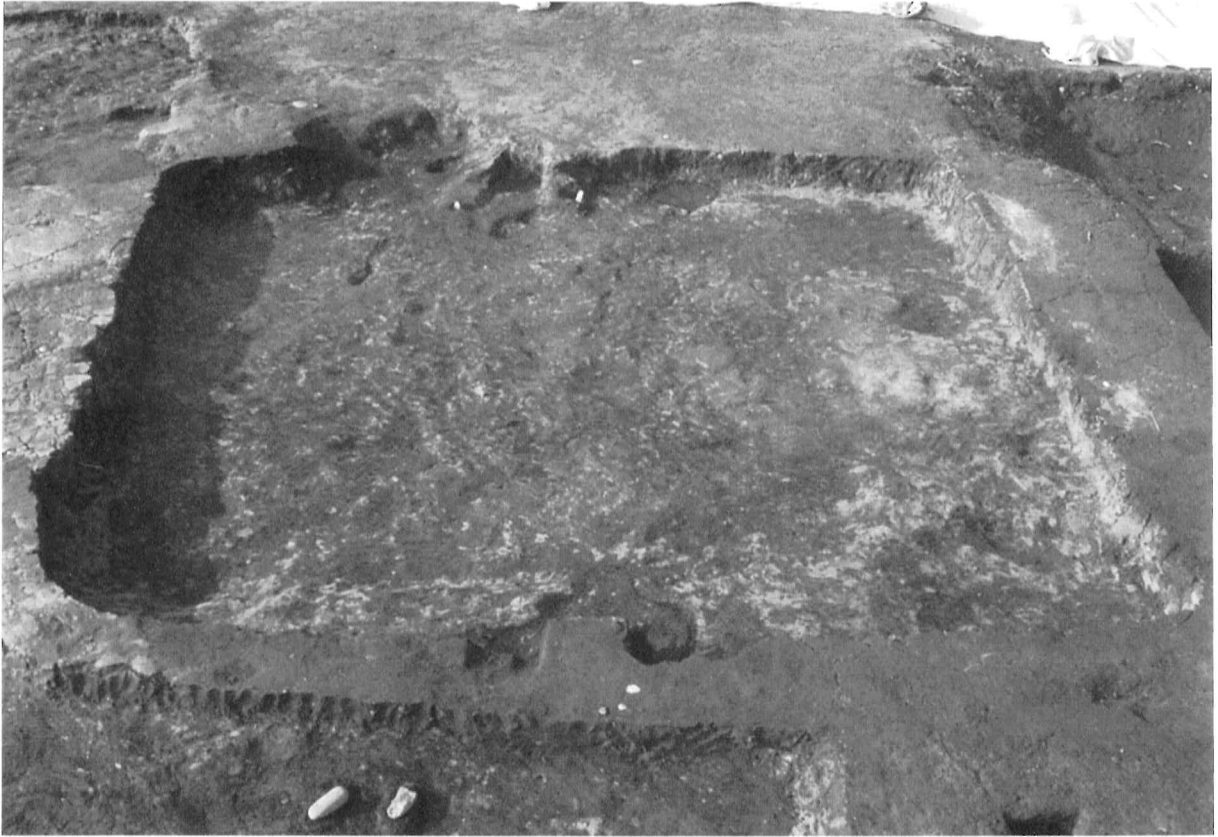
S I 02 遺物出土状況（西から）



S I 02 P1土層断面（東から）



S I 02 完掘状況（西から）



S I 0 3 完掘状況（南から）



S I 0 3 遺物出土状況（南から）



S I 03 遺物出土状況（南から）



S I 03 掘り方完掘状況（南から）

図版 12



S I 0 3 カマド完掘状況（南から）



S I 0 3 カマド袖石埋設状況（南から）



S104 完掘状況（南から）



S104 遺物出土状況（南から）

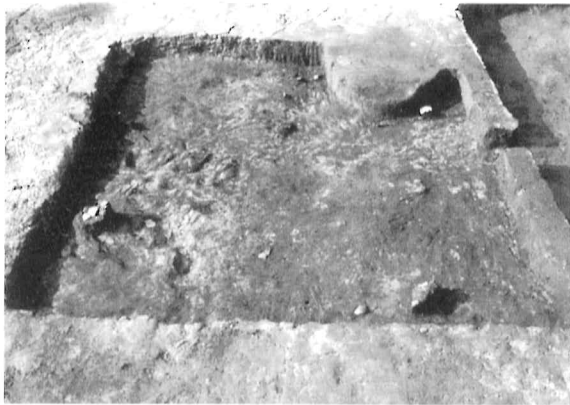
図版 14



S I O 4 掘り方完掘状況 (南から)



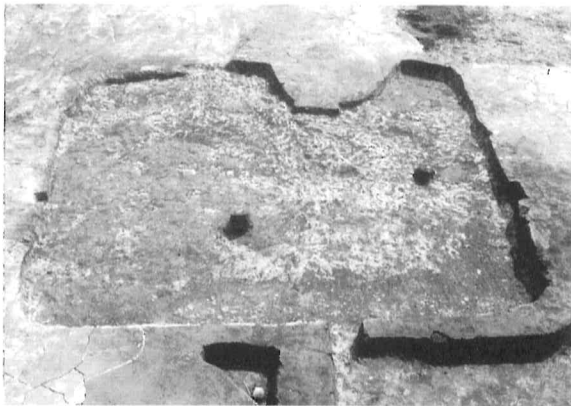
S I O 5 完掘状況 (南から)



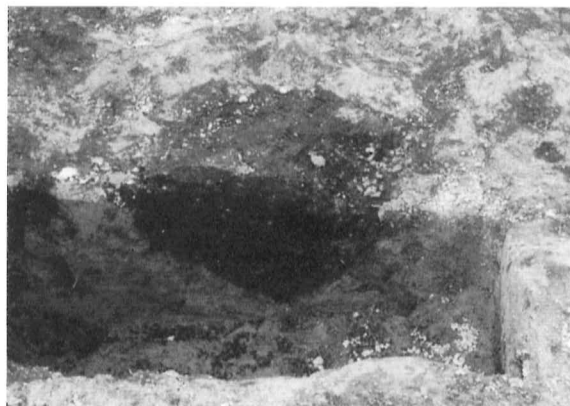
S I 05 遺物出土状況 (南から)



S I 05 鉄鎌出土状況 (南から)



S I 05 掘り方完掘状況 (北から)



S I 05 P1土層断面 (東から)



S I 05 カマド完掘状況 (南から)



S I 06 遺物出土状況 (南から)



S I 06 カマド完掘状況 (南から)



S I 06 掘り方完掘状況 (南から)



SI 07 完掘状況（南から）



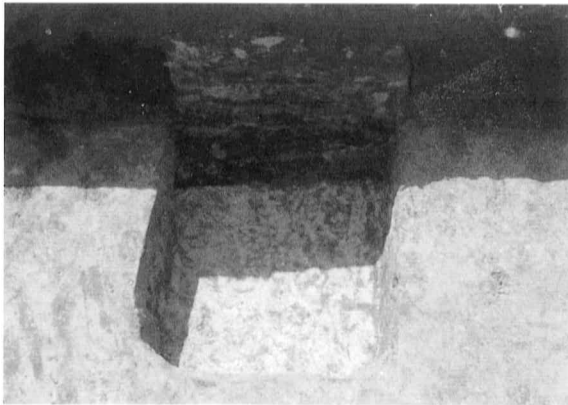
SI 07 遺物出土状況（南から）



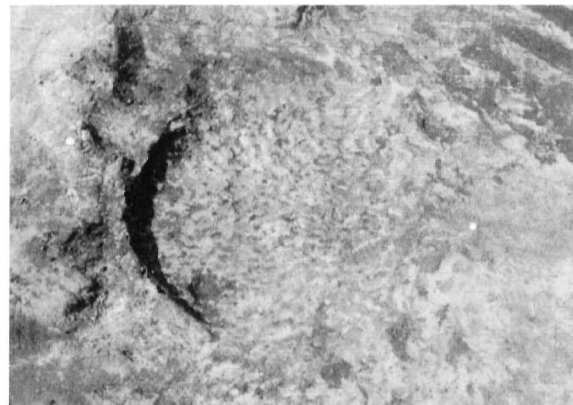
SI 08 完掘状況（北から）



SI 08 遺物出土状況（北から）



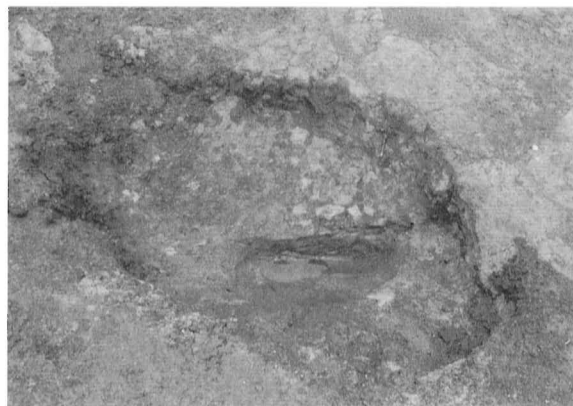
SK02 完掘状況 (北から)



SK03 完掘状況 (南から)



SK04 完掘状況 (東から)



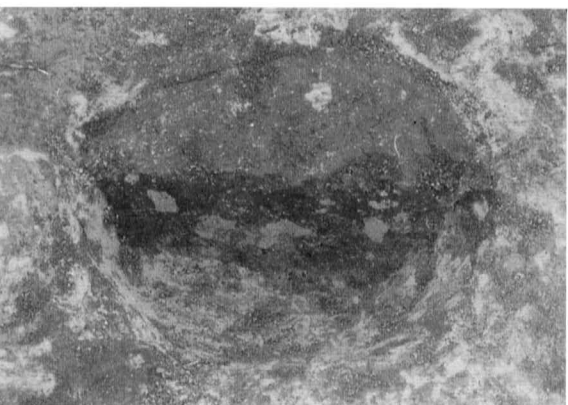
SK05 完掘状況 (南から)



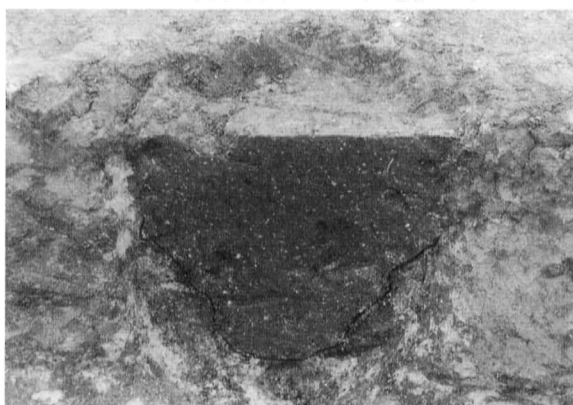
SK05 土層断面 (南から)



T2内風倒木痕 (旧SK01) (南から)



P02 土層断面 (南から)

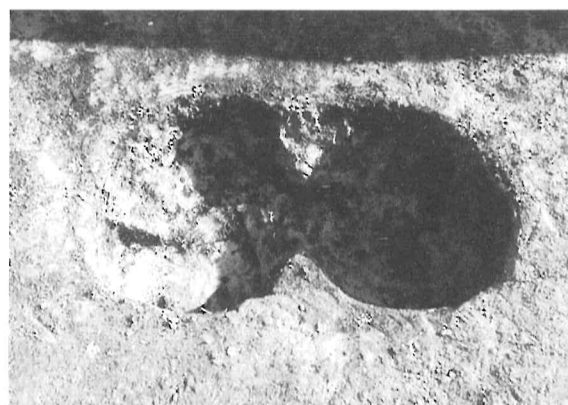


P03 土層断面 (北から)

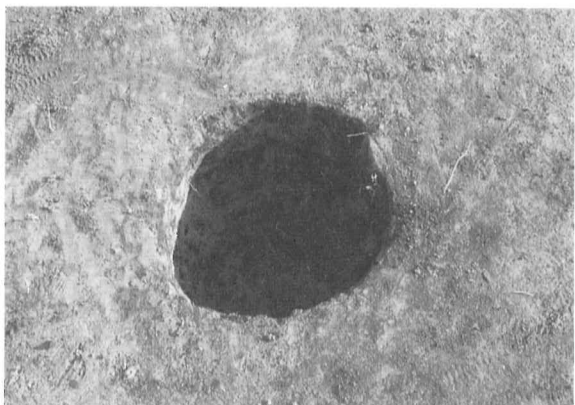
図版 18



P 0 4 土層断面 (北から)



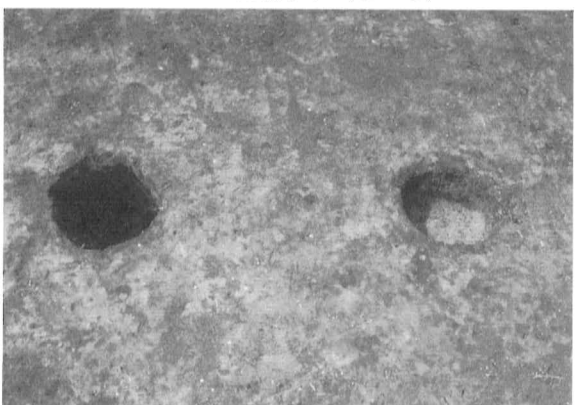
P 0 5 ・ 0 6 土層断面 (北から)



P 0 7 完掘状況 (北から)



P 0 9 完掘状況 (南から)



P 1 0、1 4 完掘状況 (北から)



P 1 2 完掘状況 (北から)



P 1 3 完掘状況 (北から)



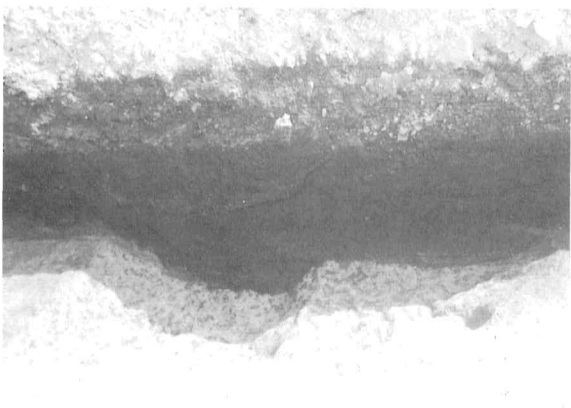
P 1 6 完掘状況 (南から)



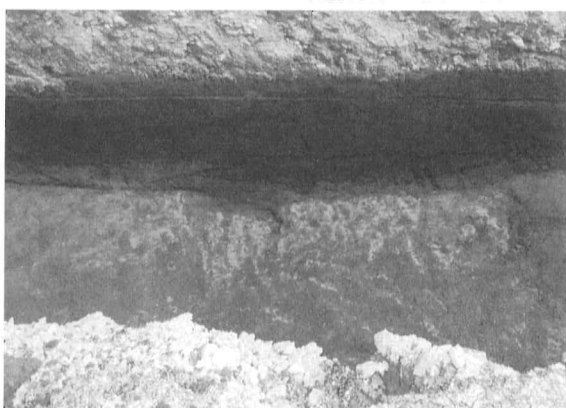
SD01 完掘状況（南から）



SD02・SX02 完掘状況（西から）



SD02・SX02 土層断面（北から）



SD03 完掘状況（南から）



SD04 完掘状況（東から）



SD05 完掘状況（南東から）



SD06 遺構確認状況（東から）



SD06 土層断面（南から）



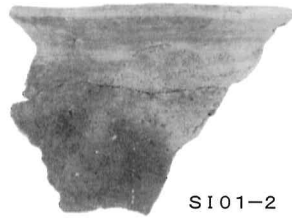
SX01 完掘状況（東から）



SX01 遺物出土状況（東から）



SI01-1



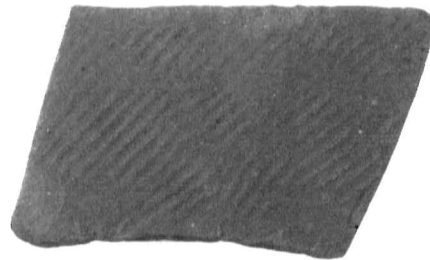
SI01-2



SI01-3



SI01-4



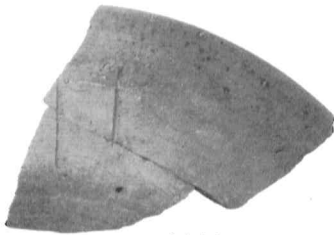
SI01-5



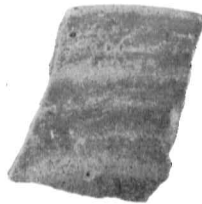
SI01-6



SI02-1



SI03-1



SI03-2



SI03-3



SI03-4



SI03-5

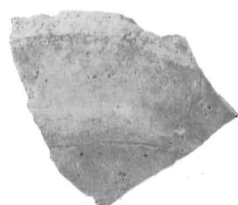


SI03-6

図版 22



SI04-1



SI04-2



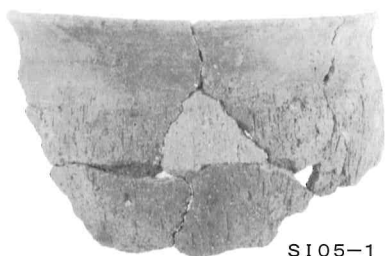
SI04-3



SI04-4



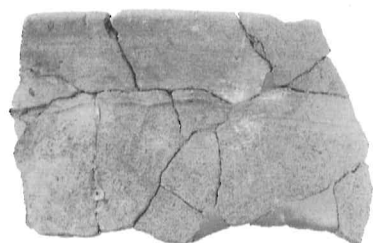
SI04-5



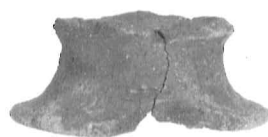
SI05-1



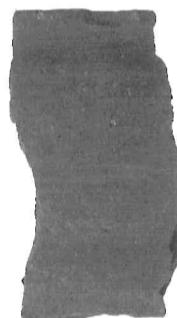
SI05-2



SI06-1



SI06-2



SI06-3



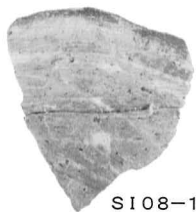
SI07-1



SI07-2



SI07-3



SI08-1



SI08-2



SI08-3



SI08-4



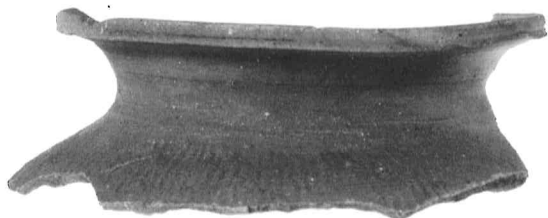
SI08-5



SI08-6



SI08-8



SI08-7



SI08-9



SD07-1



SX01-1



SX01-2



SX01-3



遺構外-1



遺構外-2

出土遺物 (3)

報告書抄録

ふりがな	なかじまささつかいせき
書名	中島笹塚遺跡 (A区)
副書名	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書 第63集
編著者名	富川 努、土生朗治、越智 徹
編集機関	山武考古学研究所
所在地	〒286-0045 千葉県成田市並木町221番地 TEL. 0476-24-0536
発行機関	宇都宮教育委員会
所在地	〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1-1-5 TEL. 028-632-2765
発行年月日	西暦 2008年1月11日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所収遺跡	コード		北緯 ° "	東経 ° "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかじまささつか 中島笹塚遺跡	栃木県 宇都宮市 東谷町 インタニ パーク 54 街区 2 画地	09201	4355	36° 29' 30"	139° 54' 53"	20070730～ 20070911	1700m ²	(株)福田屋百貨店、 中村土建株式会社が 行う施設建設工事に 伴う埋蔵文化財 発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中島笹塚遺跡	集落跡	古墳時代～奈良・平安時代	竪穴住居跡 土坑 ピット 溝	土師器(坏、甗)、須恵器(坏、甗、鉢) 土製品(支脚) 石製品(管玉、小玉、編み物石) 鉄製品(鎌)	古墳時代後期の集落跡。住居跡から碧玉製の管玉が出土している。
要約	中島笹塚遺跡の調査で、古墳時代後期～奈良・平安時代の竪穴住居跡8軒と土坑や溝が検出されている。遺跡から出土している主な遺物には、土師器坏・甗、須恵器坏・甗、石製品(管玉、小玉)、鉄鎌等がある。				

宇都宮市埋蔵文化財調査報告第63集

中島笹塚遺跡

発行年月日 平成20年1月11日

発行 宇都宮市教育委員会文化課

(宇都宮市旭1-1-5)

TEL (028) 632-2764

印刷 (有)京文社印刷

TEL 043 (242) 0064